Panasonic

パーソナルコンピューター 取扱説明書

品番 CF-C33J8シリーズ

Let's note comm /C33

98

上手に使って上手に節電

説明書の構成

CF-C33J8Cモデル

- **パーソナルコンピューター取扱説明書(本書)**
  本体の取り扱いや基本的な機能のほか、内蔵モデムを使った通信のしかたなどについて説明しています。
- **モバイルフォン取扱説明書**
  電話・FAX機能ソフトウェア「モバイルフォン」の使いかたについて説明しています。
- **カメラユニット取扱説明書**
  動画を取り込んだり、テレビ電話をかけたりなど、カメラを使った操作について説明しています。

CF-C33J8Kモデル

- **パーソナルコンピューター取扱説明書(本書)**
  本体の取り扱いや基本的な機能のほか、内蔵モデムを使った通信のしかたなどについて説明しています。
- **モバイルフォン取扱説明書**
  電話・FAX機能ソフトウェア「モバイルフォン」の使いかたについて説明しています。
- **携帯電話インターフェースユニット取扱説明書**
  携帯電話インターフェースユニットを使った通信のしかたについて説明しています。

保証書別添付

このたびはパナソニックパーソナルコンピューターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

・この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。 そのあと保存し、必要なときにお読みください。

・保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

もくじ

安全上のご注意 （必ずお守りください）

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

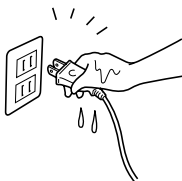
■表示内容を無視して誤った使い方をしたとき生じる危害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

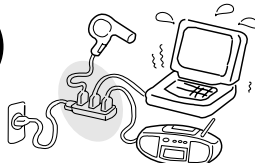
⚠危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
⚠警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物質的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で、説明しています。
（下記は絵表示の一例です。）

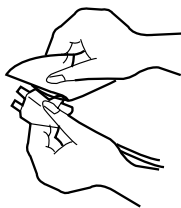
	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

ぬれた手で電源プラグの抜き差しはしない

感電の原因になります。

コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流100V以外での使用はしない

たこ足配線等で定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

⚠警告

電源プラグのほこり等は定期的にとる

プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり、火災の原因になります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
  長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

本機を改造しない また、本書に記載のない方法で分解しない

分解禁止

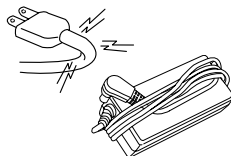
高電圧に注意
本機を分解・改造しない

「本体に表示した事項」

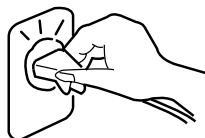
内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。また、改造や間違った方法での分解は火災の原因にもなります。

電源コード・電源プラグ・ACアダプターを破損するようなことはしない

傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない

禁止

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。

- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や、発熱による火災の原因になります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

安全上のご注意 （必ずお守りください）

⚠警告

異常が起きたらすぐに電源プラグとバッテリーパックを抜く

電源プラグを抜く

・本体が破損した　・異臭がする
・本体内に異物が入った
・煙が出ている　・異常に熱い
などの異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因になります。

● 異常が起きたらすぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

上に水などの入った容器や金属物を置かない

禁止

水などがこぼれたり、クリップ、コインなどの異物が中に入ったりすると、火災・感電の原因になります。

● 内部に異物が入った場合は、すぐに電源を切って電源プラグとバッテリーパックを抜き、販売店にご相談ください。

⚠注意

不安定な場所に置かない

禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

本機の上に重いものを置かない

禁止

バランスが崩れて倒れたり、落下したりして、けがの原因になることがあります。

1時間ごとに10～15分間の休憩を取る

長時間続けて使用すると、目や手などの健康に影響を及ぼすことがあります。

電源コードは、プラグ部分を持って抜く

電源コードを引っ張るとコードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

⚠注意

電源プラグを接続したまま移動しない

禁止

電源コードが傷つき、火災・感電の原因になることがあります。

● 電源コードが傷ついた場合は、すぐに電源プラグを抜いて販売店にご相談ください。

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

禁止

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

長時間直接触れて使用しない

禁止

本機やACアダプターの温度の高い部分に長時間触れていると、低温やけど※の原因になります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

禁止

火災・感電の原因になることがあります。

炎天下の車中に長時間放置しない

禁止

高温により、キャビネットが変形したり、内部の部品が故障または劣化したりすることがあります。このような状態のまま使用すると、ショートや絶縁不良等により火災・感電につながることがあります。

必ず指定のACアダプターを使用する

指定以外のACアダプターを使用すると、火災の原因になることがあります。

※低温やけどについて

体温より少し高い温度のものでも、皮膚の同じ個所に、長時間、直接触れていると、低温やけどを起こすおそれがあります。

使用上のお願い

・お客様の使用誤り、その他異常な条件下での使用により生じた損害、および本機の使用または使用不能から生ずる付随的な損害について、当社は一切の責任を負いません。
・本機は、医療機器、生命維持装置、航空交通管制機器、その他人命に関わる機器・装置・システムでの使用を意図しておりません。本機をこれらの機器・装置・システムなどに使用され生じた損害について、当社は一切責任を負いません。
・お客様または第三者が本機の操作を誤ったとき、静電気等のノイズの影響を受けたとき、または故障・修理のときなどに、本機に記憶または保存されたデータ等が変化・消失する恐れがあります。大切なデータおよびソフトウェアを思わぬトラブルから守るために、以下のことに注意してください。

液晶ディスプレイの取り扱い

液晶ディスプレイは衝撃や振動に弱く、破損しやすいため、持ち運びの際には十分ご注意ください。また、液晶部を持って、持ち運ばないでください。

ハードディスクのデータ保護

●コンピューターに衝撃を与えない。
ハードディスクは衝撃に弱く、破損するとデータやアプリケーションが使えなくなることがあります。
コンピューター本体の取り扱いには十分注意してください。
●Windows*やアプリケーションソフトの動作中およびHDDアクセスランプ（ ）の点灯中は、電源を切らない。
●ハードディスクに保存している必要なデータは、万一の場合（故障・変化・消失など）に備えて定期的にバックアップをとる。
●データの機密保護としてセキュリティー機能を活用する。（→112、118ページ）

* 正式名称は、Microsoft® Windows® 98 operating systemです。本書ではWindowsまたはWindows 98と表記します。

コンピューターウィルス

●最新のウィルスチェックプログラム（市販）を入手し、チェックを行う。
特に以下の場合、ウィルスチェックを行うことをおすすめします。
・コンピューターを起動するとき
・データを入手したとき
フロッピーディスクなどの外部メディアから、またネットワーク、パソコン通信、電子メールなどから入手したデータ（圧縮されている場合は、圧縮解凍後のファイル）を使用または実行する前にウィルスチェックを行ってください。

フロッピーディスクのデータ保護

フロッピーディスクを使用する場合は、フロッピーディスクドライブ（CF-VFDU02）が必要です。

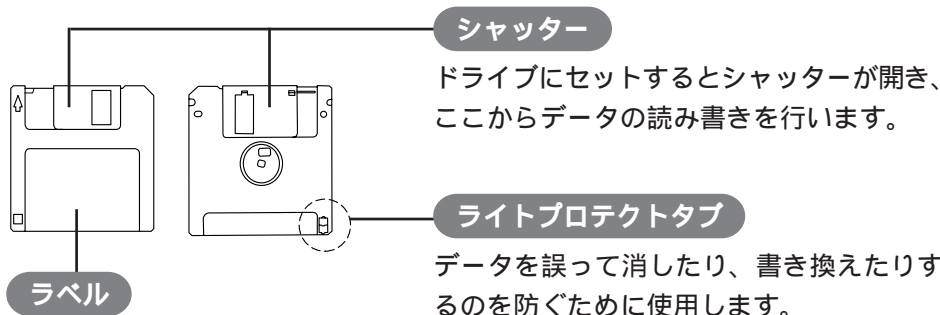
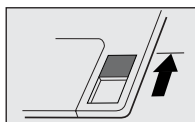
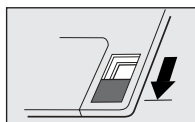
- ●フロッピーディスクドライブのランプが点灯中に、電源を切ったり、フロッピーディスクドライブの取り出しボタンに触れたりしない。
  フロッピーディスクの破損の原因になり、データやアプリケーションが使えなくなることがあります。
- ●一度使用したフロッピーディスクをフォーマット（初期化）する場合はその前に内容を確認する。
  フォーマットを行うとそのフロッピーディスクに保存されていた情報はすべて消えてしまいます。あらかじめ必要なデータがないか確認することをおすすめします。
- ●書き込み禁止タブ（ライトプロテクトタブ）を使う。
  重要なデータを保存している場合におすすめします。
  これにより、データの削除や上書き保存を禁止することができます。
- ●フロッピーディスクの取り扱いに注意する。
  データの破損やフロッピーディスクが取り出せなくなるようなトラブルを避けるために次の点に注意してください。
  - ・シャッターを手で開けない
  - ・磁気を帯びたものを近づけない
  - ・高温・低温になりやすいところ、湿気やほこりの多いところに保管しない
  - ・ラベルを重ねて貼らない

シャッター

ドライブにセットするとシャッターが開き、ここからデータの読み書きを行います。

ライトプロテクトタブ

データを誤って消したり、書き換えたりするのを防ぐために使用します。

ラベル

保存しているデータの内容などを書いておくと便利です。

書き込み可能な状態

書き込み禁止の状態

使用上のお願い

お手入れのしかた

・ディスプレイ部分
ガーゼなどの乾いたやわらかい布で、軽く拭いてください。
・ディスプレイ以外の部分
水または、水で薄めた台所用洗剤（中性）に浸したやわらかい布をかたくしぼって、やさしく汚れを拭き取ってください。

お願い

・ベンジンやシンナー、消毒用アルコールなどは使わないでください。
・水や洗剤、スプレー式のクリーナーを直接かけないでください。液が内部に入ると、誤動作や故障の原因になります。

補足説明について

補足説明（[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[補足説明]）には、本製品についての最新情報などが記載されています。あわせてご覧ください。

内蔵モデムについて

本機のモデム機能は日本国内においてのみ使用できます。NTT仕様の加入電話回線でご使用ください。特性が異なる回線に接続すると、本機が故障する恐れがあります。
＜接続できない電話回線＞
・NTTのピンクの電話回線
・構内電話
（内線交換機を通さず、外線直通の電話回線に接続してください。）
・ホームテレホン（接続ボックス）
・玄関ドアホン等

本書の読みかた

本書の表記上の約束

- キーの文字は、説明や操作に必要な文字だけを四角で囲んでいます。

  （例） N み は N や み と表記します。

- あるキーを押しながら、別のキーを押すときは、次のように「+」を使って表記します。

  （例） Fn + F6

- 「スタート」→[Windowsの終了]などは、[スタート]をクリックした後、[Windowsの終了]をクリックすることを意味します。
  （内容によっては、ダブルクリックが必要であったり、ポインターを置くだけでいい場合もあります。）

- 本書は下記の２モデルに共用の説明書です。本書中では、それぞれのモデルを略称で表記します。

モデル名	略称
CF-C33J8C（カメラ付き）	Cモデル
CF-C33J8K（携帯電話インターフェース付き）	Kモデル

- 本書中の本体イラストは、Cモデルを例にしています。

各部の名称と働き

前面

電源ボタン POWER

本体電源の 入/切を切り替えます。

スマートポインター

指先で操作してください。
ペンやつめなどでは反応しません。
→20、30ページ

スピーカー

リセットスイッチ

電源オン時、先の細いもので押すとコンピューターが再起動します。鉛筆などの折れやすいものは使用しないでください。

お願い

何らかの問題が発生して、コンピューターが操作不能状態になったとき以外は、使用しないでください。保存していないデータは失われます。

状態表示ランプ

NumLK ・CapsLK ・ScrLK 機能時：緑色
HDDアクセスランプ HDD動作中：緑色
バッテリー状態表示ランプA- -B
　バッテリーパックの充電状態を表示します。(→90ページ)
電源表示ランプ
　電源オン時：緑色　　スタンバイ時：緑色点滅

ユーザーボタン USER →48ページ

このボタンを押すと、登録されているアプリケーションが起動します。一連の操作に必要なアプリケーションをまとめて登録しておくと便利です。工場出荷時には、電子メールソフト「Outlook™ Express 4」によるメールの自動送受信が行えるように設定されています。（ただし、電子メール環境を設定しておく必要があります。）
また、電源オフ時やスタンバイ・休止状態のときに押すと、電源が入り、その後、登録されているアプリケーションが起動します。

パネルスイッチ

LCDパネルを閉じると、このボタンが押されて、自動的に画面が消えます。またはスタンバイ状態に入ります。LCDパネルを開けると、再び画面が表示されます。またはリジュームします。

お願い

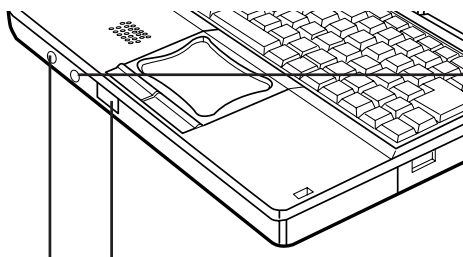
LCDパネルを閉じてスタンバイ状態に入るには、「コントロールパネル」の「電源の管理」で「Panasonic動作設定」の「ポータブルコンピュータを閉じたとき」を「スタンバイ」に設定しておく必要があります（→26、82ページ）。
また、電源表示ランプが緑色点滅するまで（完全にスタンバイ状態になるまで）はLCDパネルを開けないでください。
途中でディスプレイを開けると、スタンバイ状態に入ったままリジューム（→28ページ）できない場合があります。その場合は、再度、LCDパネルを閉じた後、数秒たってからLCDパネルを開けてください。

各部の名称と働き

前面

オーディオ出力端子

市販のオーディオ用ヘッドホン、スピーカーなどを接続します。

赤外線通信ポート

赤外線通信を行うときに使用します。

マイク入力端子

市販のミニジャックタイプのコンデンサー型モノラルマイクロホンを接続します。

お願い

- コンデンサー型モノラルマイクロホンの2極プラグタイプと3極プラグタイプを使用できます。それ以外を使用すると、音の入力ができなかったり、故障の原因になったりする場合があります。
- 「ボリュームコントロール」パネルで「マイクロフォンバランス」の「ミュート」のチェックマークを外した場合、マイクとスピーカーの音量は、ハウリングを起こさないように、「マイクロフォンバランス」と「ボリュームコントロールバランス」で適度に調節してください。
  （タスクバーに「音量」アイコンが表示されていないときは、「コントロールパネル」の「マルチメディア」で、「音量の調節をタスクバーに表示する」の左側の□にチェックマークを付けてください。）
- 録音時に音が途切れるような場合は、「コントロールパネル」の「電源の管理」の「OPL3-SAx電源管理」で、「電力消費の程度」を「パワーセーブしない」に設定してください。（ただし、バッテリーの稼動時間は短くなります。）
- 使用するマイクによっては、録音時の入力レベルが小さい場合があります。その場合は、[ボリュームコントロール]→[オプション]→[プロパティ]で「録音」と「マイクロフォン」にチェックマークを付けて[OK]をクリックした後、音量を調整してください。それでも小さい場合は、「コントロールパネル」の「OPL3-SAxConfig」で、「マイク音量設定」の「20dBアップ」の左側の□にチェックマークを付けてください。

右側面

モデムコネクター

→53ページ

USBコネクター

電源を入れたままで、USB対応のマウス、キーボード、プリンター、スキャナーなどいろいろな周辺機器を接続できます。
使用するにはUSB機器に付属のドライバープログラムをインストールする必要があります。

バッテリーパック挿入口

バッテリーパックを挿入します。（→86ページ）

左側面／後面

PCカードスロット

PC Card Standard規格に準拠したカードをセットします。（5Vまで対応）

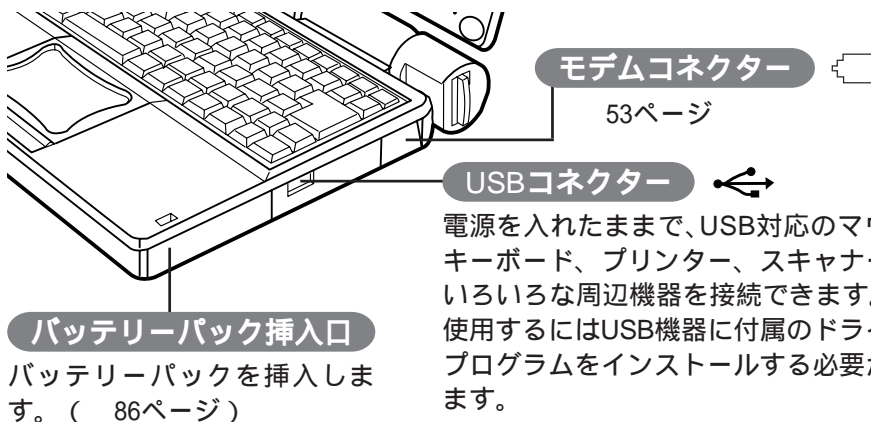
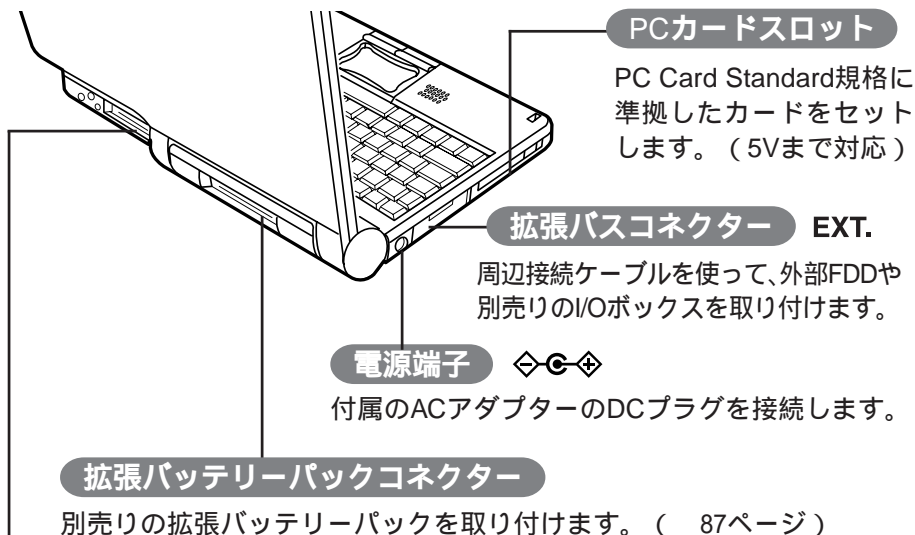
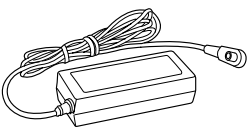
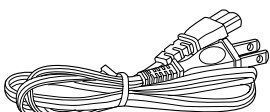
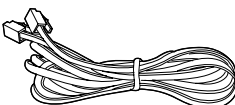
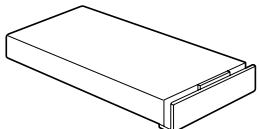
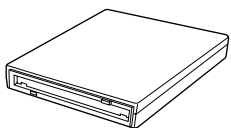
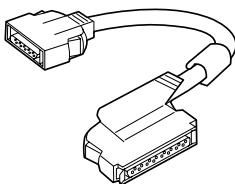
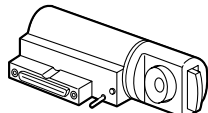
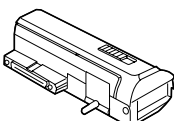
拡張バスコネクター EXT.

周辺接続ケーブルを使って、外部FDDや別売りのI/Oボックスを取り付けます。

電源端子

付属のACアダプターのDCプラグを接続します。

拡張バッテリーパックコネクター

別売りの拡張バッテリーパックを取り付けます。（→87ページ）

コミュニケーションコネクター

カメラユニット※1や携帯電話インターフェースユニット※2などを取り付けます。
詳しくは、各取扱説明書をご覧ください。
※1 Cモデル にのみ付属 ※2 Kモデル にのみ付属

付属品の確認

コンピューター本体以外に下記の付属品があります。万一、足りない場合、または購入したものと異なる場合は、お買い上げになった販売店にお確かめください。

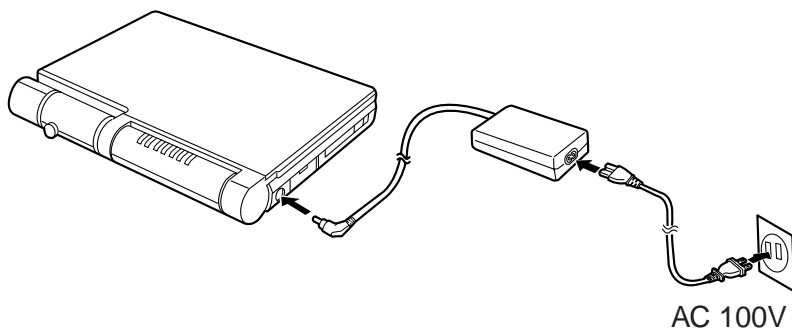
ACアダプター ... 1個	電源コード 1本	モジュラーケーブル 1本
品番:CF-AA1527		
標準バッテリーパック 1個	**外部 FDD............. 1個**	**周辺接続ケーブル ..1本**
品番:CF-VZSU07	(フロッピーディスクドライブ) 品番:CF-VFDU02	
カメラユニット .. 1個	**携帯電話インターフェースユニット .. 1個**	**Windows 98パック .. 1部**
Cモデル のみ 品番:CF-VECC33	Kモデル のみ 品番:CF-VEFC33	ファーストステップガイド CD-ROM 登録カード

取扱説明書 3部	その他の印刷物
●パーソナルコンピューター取扱説明書（本書） ●モバイルフォン取扱説明書 ●カメラユニット取扱説明書 Cモデル のみ ●携帯電話インターフェース取扱説明書 Kモデル のみ	●保証書 ●ご愛用者登録カード/ソフトウェアサポートカード ●ニフティマネージャーのご案内 ●Hi-HOのご案内 ●Let's note保険のご案内 ●Intellisync®のご案内

電源を入れる

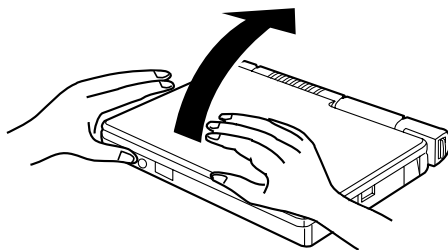
1 バッテリーパックを取り付ける。 （詳しくは→86ページ）

2 必要に応じてカメラユニット（CF-VECC33）または携帯電話インターフェースユニット（CF-VEFC33）を取り付ける。（詳しくは→各取扱説明書）

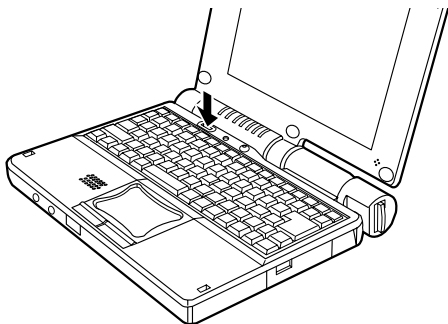
3 付属のACアダプターを接続する。

お願い

コンピューター本体にACアダプターを接続しないときは、コンセント側も抜いておいてください。
(ACアダプターをコンセントに接続しているだけで約0.6Wの電力が消費されます。)

4 ディスプレイを開ける。

ボトム部とLCD部を持って、矢印方向に開けてください。

電源を入れる

5 ソフトウェア使用許諾書（→136ページ）の内容を確認のうえ、同意する。（初回起動時のみ）

6 本体の電源を入れる。

① 電源ボタンの上に貼られたシールをはがす。（初回起動時のみ）シールをはがすと使用許諾書に同意したとみなされます。

② 電源ボタンを約１秒間押し、電源表示ランプが点灯したことを確認してから、手をはなす。

お願い

- 電源表示ランプ点灯後、Windowsのセットアップが始まるまでは電源ボタンを操作しないでください。
- 電源を切った後、再び電源を入れるまで5秒以上あけてください。

7 Windowsのセットアップを行う（初回起動時のみ）

①「ユーザー情報」画面で名前と会社名を入力し、[次へ]をクリックする。
名前や会社名の欄には、ニックネームや略称などを入力してもかまいません。また、会社名は省略することができます。

②「使用許諾契約書」画面の内容をよく読んだ後、「同意する」の左横の○をクリックし、[次へ]をクリックする。

お知らせ

「同意しない」を選んだ場合、Windowsのセットアップが中止されます。

③「プロダクト キー」画面が表示されたら、付属の『ファーストステップガイド』の表紙に記入されている番号を入力し、[次へ]をクリックする。

④「ウィザードの開始」画面が表示されたら、[完了]をクリックする。

⑤「Windows パスワードの入力」画面でユーザー名とパスワードを入力し、[OK]をクリックする。
パスワードは省略することもできます。

⑥「日付と時刻のプロパティ」画面で[日付と時刻]タブをクリックする。
日付と時刻が正しく設定されていない場合は修正して[閉じる]をクリックする。

⑦「プリンタの追加ウィザード」画面が表示されたら、ここでは、まだプリンターを接続していないので、[キャンセル]をクリックする。

お知らせ

Windows起動後に、[スタート]→[設定]→[プリンタ]→[プリンタの追加]をクリックすると、プリンターの設定を行うことができます。
プリンターの接続：パラレルコネクター（→97ページ）

⑧「Windows 98 へようこそ」画面が表示されます。

8 Acrobat® Reader 3.0Jをインストールする。（初回起動時のみ）

お知らせ

Acrobat® Readerはモデムのコマンド一覧などのオンラインマニュアルを見るときに必要です。

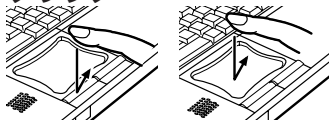
①[スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
②「c:\util\reader\setup.exe」と入力して[OK]をクリックする。
③[次へ]をクリックし、Acrobat® Reader 3.0Jをセットアップする。
④「使用許諾契約書」の内容を読んで、同意したら[はい]をクリックする。
⑤[次へ]をクリックする。
⑥[終了]をクリックする。
「Readme」を必要に応じて読み、終了するときは「Readme」右上の☒をクリックしてください。
⑦[OK]をクリックする。

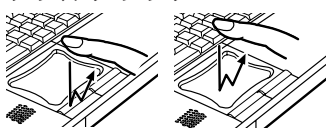
お知らせ

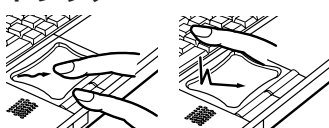
工場出荷時、省電力設定がされているため、操作やデバイスへのアクセスがない状態が続く*とディスプレイの電源が切られます。（*バッテリーパックのみで動作時：３分間／ACアダプター接続時：15分間）
この場合、スマートポインターかキーボードの操作を行うとディスプレイが元の状態に戻ります。

◆スマートポインターを使った基本操作

操作面を軽く指先でなぞると、カーソルをスムーズに動かすことができます。
指先で操作面を軽くたたくと、マウスの左ボタンもしくは右ボタンを使うのと同じ働きをします。
２つのボタンは、マウスの左右のボタンと同じ働きをします。
左ボタン､右ボタンの設定は､「マウスのプロパティ」（→36ページ）により変更することができます｡下記では、工場出荷時の状態に基づいて説明しています。
また、文中の「たたく」とは、触ってその後、離すことです。

クリック

操作面上を軽く１回指先でたたく（タップ）か、左ボタンを１回押して離す。

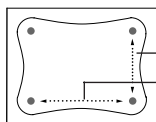
ダブルクリック

操作面上をすばやく２回指先でたたく（ダブルタップ）か、左ボタンをすばやく２回押して離す。

ドラッグ

１本の指で左ボタンを押したまま別の指で操作面をなぞるか、操作面を１回たたいてからすばやく指先で操作面をなぞる。

- 「マウスのプロパティ」の「タッピング」でドラッグロック機能（手を離してもドラッグ状態を保持する機能）を設定することができます。

ドロップ

ドラッグ後、指を離す。

スクロール

ここを上下にこすると、ウィンドウの縦方向のスクロールバーの上下移動と同じ働きをします。

ここを左右にこすると、ウィンドウの横方向のスクロールバーの左右移動と同じ働きをします。

- スクロール機能はアプリケーションによって動作しないことがあります。
- 「マウスのプロパティ」の「ボタン」の「オプション」で「マウス互換モードを使う」にチェックマークを付けると、スクロール機能が働きません。
- ４コーナーの●の操作方法については→30ページ

お願い

エクスプローラーなどを使って、フロッピーディスク中の大容量のデータファイルを開く途中や、そのファイルのプレビュー表示を作成している途中などには、カーソル移動操作を頻繁に行わないでください。コンピューターが正常に動作しなくなることがあります。

電源を切る

1 [スタート]→[Windowsの終了]をクリックする。

キーボードを使って終了する場合

⊞ を押してスタートメニューを表示し、[Windowsの終了]を選ぶ。

スマートポインターを使って終了する場合

スマートポインター上の右下コーナーの●をダブルタップする。
(→30ページ)

2 「電源を切れる状態にする」が選ばれていることを確認して[OK]をクリックする。

自動的に電源が切れます。

電源を切らずに、起動し直したい(再起動)場合

[再起動する]を選んで、[OK]をクリックする。

Let's note用の壁紙を使用するには

①[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。
②[画面]アイコンをダブルクリックする。
③「背景」の「壁紙」を「Lets...」の中から選ぶ。
④[OK]をクリックする。

バックアップディスクを作成する

お願い

ハードディスクの内容が消えてしまったときなど、再インストールを行う必要が起こったときのために、必ず以下のバックアップディスクを作成しておいてください。ハードディスクを初期化した後では作成することができませんので、ご注意ください。

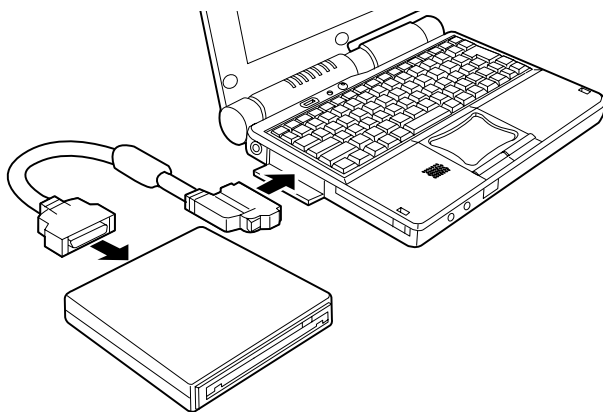
①ファーストエイドFD（1枚）
②CD-ROMセットアップ起動ディスク（1枚）

上記に加え「アップデートFD」の作成画面が表示された場合は、画面に従って作成してください。

準備するもの

- フロッピーディスクドライブ
- 2HDのフロッピーディスク２枚（別売）
  「アップデートFD」の作成画面が表示された場合は、その分を加えた枚数が必要になります。

1 操作を終わる（→21ページ「電源を切る」）

2 フロッピーディスクドライブを取り付ける。(詳しくは→93ページ)

3 ACアダプターを接続し、ディスプレイを開けて電源を入れる。

Windowsの画面が表示されます。

4 [スタート]をクリックし、[プログラム]→[Panasonic]の順にポインターを置き、[ファーストエイドFD作成]をクリックする。

5 バックアップディスクを順に作成する。

画面の指示に従って操作してください。
作成したバックアップディスクには、それぞれフロッピーディスクラベルを貼ってください。

お願い

- フロッピーディスクドライブのランプ点灯中に、フロッピーディスクを取り出したり、電源を切ったりしないでください。また、スタンバイや休止状態機能を使用しないでください。
- バックアップディスクの作成中は、その他のアプリケーションプログラムは実行しないでください。
- バックアップディスクの作成中に「コピーするファイルが足りません。」というメッセージが表示された場合は、[OK]を選んで操作を終了し、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
- ディスク作成後、再起動するときに時間がかかることがあります。

◆再インストールのための準備

再インストール時には、CD-ROMドライブが必要です。再インストールの必要が起こったときのために、使用するCD-ROMドライブにあわせて、「CD-ROMセットアップ起動ディスク」を設定しておいてください。

準備するもの

- できあがった「CD-ROMセットアップ起動ディスク」
- 付属の「プロダクトリカバリーCD-ROM」
- 別売りのCD-ROMドライブ[*1]（推奨品：下記Panasonic製ドライブ）

PD/CD-ROMドライブ
LF-1500J/JDN，LF-1600JB[*2]，LF-1700JB[*2]
CD-ROMプレーヤー
KXL-DN720A，KXL-DN740A/A-NB，KXL-DN745A，KXL-783A，KXL-800A-N，KXL-803A-N，KXL-807AN,KXL-808AN，KXL-810AN

[*1] PDドライブ、CD-ROMプレーヤーなどを総称して「CD-ROMドライブ」と呼びます。
[*2] インターフェースカード（CF-JSC201/301）を使用してください。

使いかた 基本

バックアップディスクを作成する

①フロッピーディスクドライブおよびCD-ROMドライブを接続する。
（フロッピーディスクドライブの接続　→93ページ
CD-ROMドライブの接続　→CD-ROMドライブに付属の説明書）

②「CD-ROMセットアップ起動ディスク」を書き込み可能な状態にしてフロッピーディスクドライブにセットし、CD-ROMドライブとコンピューターの電源を入れる。

③●推奨CD-ROMドライブをお使いのかたは
画面のメッセージに従って、使用するCD-ROMドライブを選ぶ。
「CD-ROMセットアップ起動ディスク」の中のCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルの内容が自動的に書き換えられます。

●推奨品以外のCD-ROMドライブをお使いのかたは
「3.その他のCD-ROMドライブ」を選択してください。その後、使用するCD-ROMドライブやインターフェースカードに付属のフロッピーディスクから、「CD-ROMセットアップ起動ディスク」へ必要なドライバーをコピーし、「CD-ROMセットアップ起動ディスク」中のCONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルの内容を書き換えてください。
ドライブによってはカードマネージャー（カードサービスとソケットサービス）が必要なものもあります。詳しくは、ドライブやインターフェースカードに付属の説明書をご覧ください。

④MS-DOSのプロンプト（A:\>）が表示されたら、Alt + Ctrl + Del を押してコンピューターを再起動する。

⑤「再インストールを実行しますか」というメッセージが表示されたら、N を押す。

お願い

必ず、N を押してください。Y を押すと、再インストールが始まりますのでご注意ください。

⑥「プロダクトリカバリーCD-ROM」をセットし、MS-DOSのプロンプトに続けて「dir L:」と入力して Enter を押し、Lドライブを認識できるか確認する。

お知らせ

Lドライブが認識できない場合は、下記のことを確認してください。
- CD-ROMドライブは正しく接続されているか？電源が入っているか？
- 推奨ドライブを使用している場合、前ページ手順 ③で使用するドライブを正しく選んだか？
  （→下記「お知らせ」）
- 推奨以外のドライブを使用している場合、必要なドライバーがそろっているか？CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの内容が正しいか？

⑦認識できることを確認したら、「A:\>」プロンプトに続けて「tools\shutdown」と入力して Enter を押し Y を押す。
コンピューターの電源が切れます。

お知らせ

使用するCD-ROMドライブを変更する場合などには、下記に従って操作してください。

(1) 前ページ手順①、②を行う。

(2)「再インストールを実行しますか」と表示されたら N を押す。

(3)「A:\>」プロンプトに続けて「tools\seldrv」と入力して Enter を押す。

(4) 前ページ手順③～⑦を行う。

お願い

再インストール時には、「再インストールのための準備」を行ったCD-ROMドライブと「CD-ROMセットアップ起動ディスク」をご使用ください。
違うものを使用すると、CD-ROMドライブを正しく認識できないため、再インストールを行うことができません。

「スタンバイ」と「休止状態」機能

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使うと、アプリケーションソフトを終了することなく、電源の入/切を行うことができます。電源を入れると、電源を切る前に使用していたアプリケーションソフトやファイルが画面に表示されるので、すぐに操作を始めることができます。

スタンバイと休止状態の違い

	状態の保存先	立ち上がり速度	電源の供給
スタンバイ	メモリー	速い	必要
休止状態	ハードディスク	やや遅い	不要

使いかた

「スタンバイ」や「休止状態」機能を使って終了する

1 スタンバイまたは休止状態を設定する。

工場出荷時には、「スタンバイ」に設定されています。

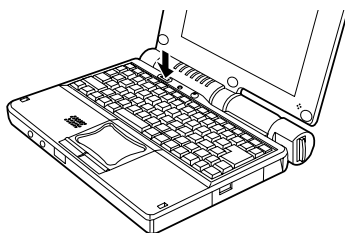
①「コントロールパネル」の[電源の管理]を起動する（→76ページ）

②[Panasonic動作設定]タブをクリックする。

③[コンピュータの電源ボタンを押したとき]を[スタンバイ]または[休止状態]に設定して、[OK]をクリックする。

便利

2 電源ボタンを押す。

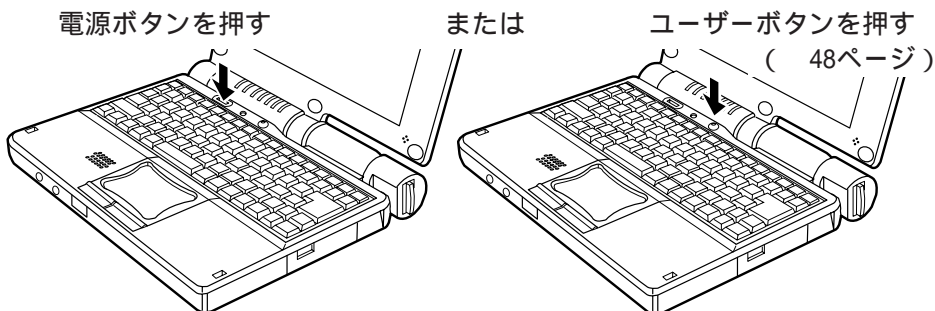
ピッという確認音が鳴ってから手を離すと、スタンバイまたは休止状態になります。（Fn + F4 でスピーカーをオフに設定している場合、音は鳴りません。→122ページ）

お願い

- 電源ボタンを４秒以上押したままにしないでください。４秒以上押し続けると、ピーという連続音が鳴り、スタンバイや休止状態に入らず自動的に電源が切れます。（Fn + F4 でスピーカーをオフに設定している場合、音は鳴りません。）
- 処理中はマウス、モデム、その他のシリアルデバイスには触れないでください。操作を再開したときシステムに認識されないことがあります。そのようなときには、本体を再起動するか、デバイスを初期化し直してください。
- 処理中は、リセットスイッチを押さないでください。保存していないデータは失われます。
- WindowsやMS-DOS以外のオペレーティングシステム（OS）ではスタンバイおよび休止状態に入れないことがあります。
- 以下の場合は、スタンバイおよび休止状態に入らないでください。これらの機能や周辺機器が正常に動作しない場合があります。
  - 通信ソフト動作中・ネットワーク使用中
  - オーディオの録音・再生中
  - PCカード（SCSI・ATAカード）などの周辺装置の使用中
  - フロッピーディスクドライブ・ハードディスクドライブ・CD-ROMドライブ・USB機器などの使用中
- 「モニタの電源を切る」（［コントロールパネル］→［電源の管理］→［電源設定］）とスクリーンセーバー（［コントロールパネル］→［画面］→［スクリーンセーバー］）の両方を設定していると、スタンバイや休止状態から正常にリジュームできない場合があります。
- 休止状態に入るには、内蔵ハードディスク上に、メモリーデータ書き出し用として一定の領域が必要です。領域は、工場出荷時に確保してありますが、ハードディスクのパーティションを変更したときなどには、確保し直す必要があります。詳しくは、「休止状態用データ領域の作成」（→105ページ）をご覧ください。

お知らせ

- Fn + F7 を押して休止状態に入ることもできます。
- Windows 98起動時は、Fn + F10 を押してスタンバイ状態に入ることができます。また、[スタート]→[Windowsの終了]をクリックして「スタンバイ」を選んでも、スタンバイ状態に入ることができます。

「スタンバイ」と「休止状態」機能

操作を再開する

お願い

- Windowsが完全に起動するまで、キーボード、マウスなどを操作しないでください。
- バッテリー容量が少ない状態でスタンバイや休止状態に入るとリジュームできない場合があります。その場合はACアダプターをつないでから電源を入れてください。

お知らせ

- スタンバイや休止状態から次に電源を入れたときに元の状態に戻ることを「リジューム する」と言います。
- スタンバイ中内蔵モデムの回線に電話がかかると、自動的にリジュームするよう設定しておくこともできます。（→82、115ページ）

クイックラウンチャー機能

クイックラウンチャー機能を使用すると、スマートポインターやユーザーボタンを使って、より簡単にパソコン操作を行うことができます。
クイックラウンチャー機能には、大きく分けて次の３つがあります。

＜スマートポインター連携＞→30ページ

スマートポインターのコーナーの●をダブルタップするだけで、ラウンチャーを起動したり、ウィンドウを閉じる、最大化するなど設定されているウィンドウ操作を行ったり、また、Enter、Tab、Esc キーの押下操作を行ったりすることができます。また、登録しておいたアプリケーションを起動することもできます。

＜USERボタン連携＞→48ページ

ユーザーボタンを押すと、メールを自動的に送受信することができます。（ただし、電子メール環境を設定しておく必要があります。→53ページ）
また、あらかじめ登録しておいたアプリケーションを起動することもできます。

＜ラウンチャー設定＞→39ページ

ラウンチャー画面から操作を選ぶだけで、ウィンドウを閉じる、最大化するなど登録されているウィンドウ操作を行ったり、Enter、Tab、Esc キーの押下操作を行ったり、またアプリケーションを起動したりすることもできます。
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。

お願い

タスクバーにクイックラウンチャーアイコン が表示されていない場合は、上記３つのクイックラウンチャー機能は動作しません。
クイックラウンチャー機能を使用する場合は、[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[クイックラウンチャー]をクリックして、クイックラウンチャーアイコンが表示されたことを確認してください。工場出荷時には、Windows起動後、自動的に表示されるように設定されています。

お知らせ

アプリケーションによっては、登録されているウィンドウ操作が動作しないものもあります。

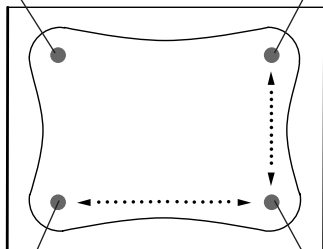
クイックランチャー機能

スマートポインター連携

スマートポインターのコーナーにある4つの●をダブルタップするだけで、登録されているアプリケーションを起動したり、ウィンドウ操作を行ったり、Enter、Tab、Esc キーの押下操作を行ったりすることができます。

（例）工場出荷時

ここをダブルタップすると、ラウンチャーが起動します。
（→40ページ）

ここをダブルタップすると、エクスプローラーが起動します。

ここをダブルタップするとアクティブウィンドウが最大化されます。または元の大きさに戻ります。

ここをダブルタップするとアクティブウィンドウが閉じられます。どのウィンドウもアクティブでない場合は、「Windowsの終了」画面が開きます。

使いかた

便利

お願い

上記4コーナーの機能を使用するときは

- タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。（→前ページ「お願い」）
- ラウンチャー（→39ページ）を起動しているときには、この機能は働きません。ラウンチャーを終了させてください。
- 「マウスのプロパティ」の「ボタン」の「オプション」設定で、「マウス互換モードを使う」のチェックマークを外しておいてください。工場出荷時には外されています。（→37ページ）

お願い

各コーナーごとに機能を一時的に中止したい場合は
タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをクリックし、プルダウンメニューから該当するメニューを選んでチェックマークを付けてください。

パッドボタンを使わない	：４コーナーの動作を中止します。
左上を使わない	：左上コーナーの●の動作を中止します。
右上を使わない	：右上コーナーの●の動作を中止します。
左下を使わない	：左下コーナーの●の動作を中止します。
右下を使わない	：右下コーナーの●の動作を中止します。

スマートポインター連携を中止したコーナーは、通常の基本操作領域として機能します。（→20ページ）

◆環境設定（スマートポインター連携）

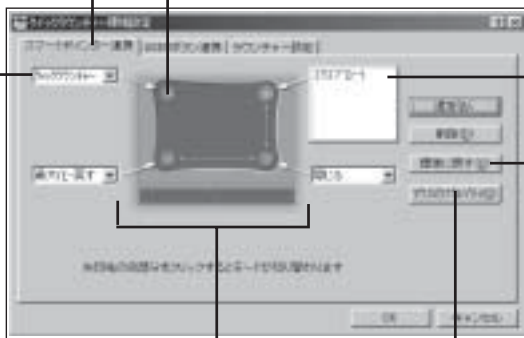
スマートポインター上の4コーナーの各●をダブルタップしたときの動作は、環境設定で変更することができます。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをダブルクリックする。
または、クイックラウンチャーアイコンをクリックして、[環境設定]をクリックする。

使いかた 便利

2 「スマートポインター連携」タブをクリックする。

画面上の各◎をクリックすると、選択ボックスと登録ボックスが切り替わります。

登録ボックス

ここをクリックすると、各設定が工場出荷時の状態に戻ります。

スマートポインター画面

スマートポインターやマウス端子に接続した外部マウスの動作の詳細を設定します。（→36ページ）

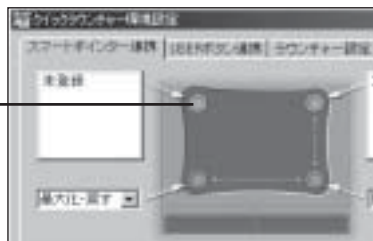
選択ボックス
画面上の◎が緑色の場合（選択ボックス表示時）は、
すでに登録されている項目（ウィンドウの操作・キー押下操作・ラウンチャー起動）の中から、ひとつを選んで設定することができます。

画面上の◎が黄色の場合（登録ボックス表示時）は、
ひとつの◎に対して複数のアプリケーションを任意に登録できます。一連の操作に必要なアプリケーションをまとめて登録しておくと便利です。

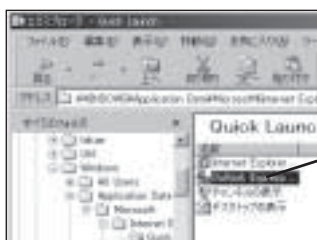
以降の操作については、スマートポインター上の左上コーナーの●を例にあげて説明します。

3 アプリケーションを登録・削除する。
または、すでに登録されている操作の中から、ひとつの操作を選んで設定・解除する。

●アプリケーションを登録する場合（◎は黄色）

①スマートポインター画面の左上コーナーの◎をクリックして、黄色にする。

②登録したいアプリケーションのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。（登録ボックスにファイルがコピーされます。）

または、登録ボックスの項目のいずれかをクリックして反転表示させてから、

[追加]ボタンをクリックし、

登録したいアプリケーションを選び、[開く]をクリックする。

使いかた

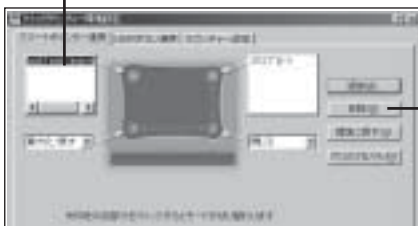
便利

クイックラウンチャー機能

お知らせ

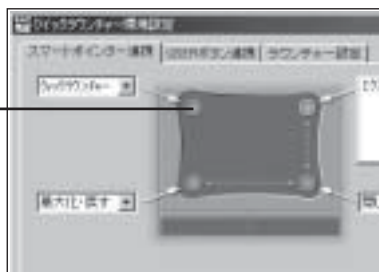
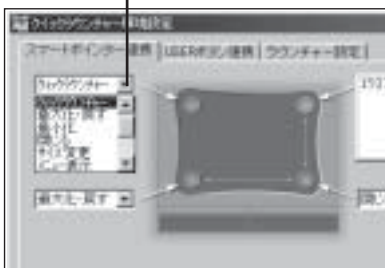
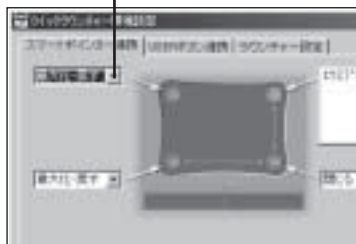
**登録できるファイルは、ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。
ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。**

●登録したアプリケーションを削除する場合（◎は黄色）

**前ページ手順 ②で、
登録ボックスの削除したい項目をクリックして反転表示させてから、**

[削除]ボタンをクリックする。

●すでに登録されている操作の中から選択する場合（◎は緑色）

①スマートポインター画面の左上コーナーの◎をクリックして、緑色にする。

使いかた 便利

②選択ボックスの右端の▼をクリックし、

項目の中から設定したい操作を選ぶ。

お知らせ

- どのウィンドウもアクティブでない状態で「メニュー表示」機能を動作させると、「スタート」メニューが開きます。
- アプリケーションによっては、メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対して「メニュー表示」機能を動作させた場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。
- どのウィンドウもアクティブでない状態で「閉じる」機能を動作させると、「Windowsの終了」画面が開きます。
- 「サイズ変更」機能を実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。

●すでに登録されている操作の中から何も選択しない場合

（◎は緑色）

上記手順②で、「なし」を選んでください。

お知らせ

「なし」に設定すると、そのコーナー部分は指で触れても反応しなくなります。キー入力時など右上や左上コーナーに指が触れる場合には、「なし」に設定しておくと便利です。
ただし、その際には、タスクバーのクイックラウンチャーアイコンのメニューで「パッドボタンを使わない」や「左上を使わない」「右上を使わない」にチェックマークを付けないでください。（→31ページ）

4 設定内容を確認して、「環境設定」プログラムを終了する。

[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

クイックラウンチャー機能

◆マウスのプロパティ設定

スマートポインターや別売りのマウスの動作の詳細を設定します。

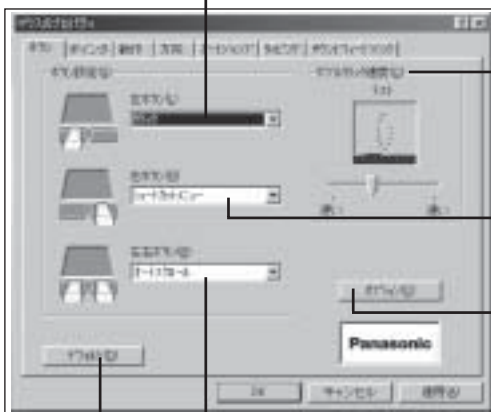
1 「マウスのプロパティ」画面を開く。

「環境設定」プログラムの「スマートポインター連携」タブの[マウスのプロパティ]をクリックする。

または、タスクバーのAlps Pointアイコンをダブルクリックするか、「コントロールパネル」の[マウス]をダブルクリックする。

2 各設定を行う。

ここでは、主な設定について説明します。

左ボタンを押したときの機能を設定します。

ボタンもしくは操作面をダブルクリックしたときの速度を調節できます。（ラウンチャー使用時のダブルタップ速度もここで調節されます。）

右ボタンを押したときの機能を設定します。

（→次ページ）

左ボタンと右ボタンを同時に押したときの機能を設定します。

「ボタン」設定画面のすべての設定（オプション設定の内容も含む）を標準の状態（＝工場出荷状態）に戻します。

お知らせ

スクロール機能（オートスクロール機能を含む）は、アプリケーションによって動作しない場合があります。
また、すばやく繰り返し動作させると、反応が遅くなる場合があります。

使いかた 便利

「マウスのプロパティ」の「ボタン」設定画面で、[オプション]ボタンをクリックすると、オプション設定画面が表示されます。

スマートポインターのスクロール機能を使用するときは、ここにチェックマークを付けます。

スクロール機能が有効の場合、その速度を調節します。
ラウンチャー（→39ページ）使用時は、デフォルト状態（２番目に遅い）にしておいてください。
それ以外の速度に変更すると、ラウンチャー画面でのスクロールがうまく動作しません。

スマートポインターのスクロール操作領域を設定します。
また、各コーナーの●の操作領域を変更したい場合も、ここで調節してください。スクロール領域の縦と横が交差した部分が各コーナーの●の操作領域になります。

タスクバーに「マウスのプロパティ」起動用のアイコンを表示したい場合は、チェックマークを付けます。

変更した設定を保存せずにオプション設定を終わります。

変更した設定を保存してオプション設定を終わります。

スクロール機能やクイックラウンチャー機能（→20、30、40ページ）を使用するときは、チェックマークを外してください。
マウス端子に接続した外部マウスとスマートポインターを併用したいときは、チェックマークを付けてください。ただし、セットアップユーティリティーの「システム設定」で「スマートポインター」を「有効」に設定している場合（工場出荷時）は、再起動後には、自動的にチェックマークが外されます。

[タッピング]タブをクリックすると、以下の画面が表示されます。

操作面をタップする速度を調節できます。

ここにチェックマークを付けると、ドラッグした後、手を放してもドラッグ状態を保持するように設定できます。また、保持状態の解除方法を「自動解除」と「タッピング又はクリックで解除」から選ぶことができます。「自動解除」を選んだ場合は、その時間を設定できます。

「タッピング」設定画面のすべての設定を標準の状態に戻します。

お願い

「タッピング又はクリックで解除」に設定している場合は、ドラッグロック中には、スタンバイや休止状態に入らないでください。リジューム後にディスプレイに何も表示されなくなります。その場合は操作面をタップまたはボタンをクリックしてください。

3 設定を終了する。

各設定画面で[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、マウスのプロパティ設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、マウスのプロパティ設定を終わります。
[適用]をクリックすると、変更内容を保存します。マウスのプロパティ設定は終了しません。

ラウンチャー設定

ラウンチャー画面から操作を選ぶだけで、登録されているウィンドウ操作を行ったり、 Enter 、Esc 、Tab キーの押下操作を行ったりすることができます。また、あらかじめ登録しておいたアプリケーションを起動したりすることもできます。

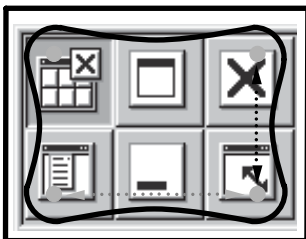
ラウンチャー画面には、最大24個の操作を登録できます。いろいろな操作を登録しておきたいときに便利です。

ラウンチャーには、次の２種類の操作モードがあります。各モードは環境設定（ラウンチャー設定）（→43ページ）で切り替えることができます。工場出荷時には、パッド操作モードに設定されています。

＜パッド操作モード＞

パッド操作モード時には、スマートポインターは6区画※または9区画※に分けて管理されています。スマートポインターの各区画は、ラウンチャー画面の各区画に対応しています。スマートポインターの各区画をダブルタップすると、その区画に対応したラウンチャー画面の区画に表示されている操作を行うことができます。

※何区画に分けるかは、環境設定（ラウンチャー設定）（→43ページ）で切り替えることができます。工場出荷時には、6区画に設定されています。

スマートポインターとラウンチャー画面の対応図（一例）

＜マウス操作モード＞

マウス操作モード時には、スマートポインターは区画管理されていません。通常どおりスマートポインターやキーボードを使ってラウンチャー画面のアイコンの位置にカーソルを移動してからダブルクリックすると、登録されている操作を行うことができます。

使いかた　便利

クイックラウンチャー機能

1 ラウンチャーを起動する。

スマートポインターの左コーナーの●をダブルタップする。

お願い

ラウンチャーを起動するときは

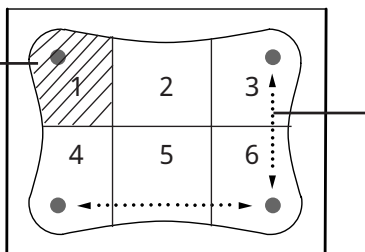
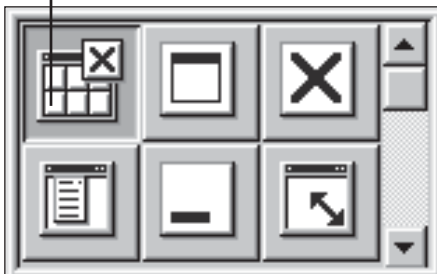
・タスクバーにクイックラウンチャーアイコンが表示されていることを確認してください。（→29ページ「お願い」）
・「マウスのプロパティ」の「ボタン」の「オプション」設定で、「マウス互換モードを使う」のチェックマークを外しておいてください。工場出荷時には外されています。（→37ページ）
・スマートポインター上のコーナーの●をダブルタップすると、ラウンチャーが起動するように、「環境設定（スマートポインター連携）」（→30ページ）で設定しておいてください。工場出荷時には、左上コーナーの●をダブルタップすると起動するように設定されています。
・ラウンチャー起動時は、スマートポインター連携機能は働きません。（→30ページ）

2 登録されている操作を実行する。

●パッド操作モード時

スマートポインター

スマートポインターの区画１をダブルタップすると、

ラウンチャー画面の区画１に表示されている操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

スマートポインターのここをこすると、ラウンチャー画面がスクロールします。
また、カーソルキーを使って画面をスクロールさせることもできます。

ラウンチャー画面

ラウンチャー画面のアイコン上にカーソルを置くと、そのアイコンの機能説明が、画面上に数秒間表示されます。

お願い

ダブルタップ時のお願い

- ２回目のタップ時にも、すばやく手を放してください。操作面に触れたままにするとうまく動作しません。
- スマートポインター上の各区画の中央部をタップしてください。各区画の境界部をタップするとうまく動作しないことがあります。

お知らせ

- パッド操作モード時には、カーソルをラウンチャー画面の外に移動できません。また、ラウンチャー画面上でのカーソルの位置は、操作の対象と一致しません。例えば、区画１のアイコンが選ばれていても、スマートポインター上の区画６をダブルタップすると、区画６に表示されている操作が実行されます。
- どのウィンドウもアクティブでない状態でを実行した場合、「スタート」メニューが開きます。
- どのウィンドウもアクティブでない状態でを実行した場合、「Windowsの終了」画面が表示されます。
- メニューバーの移動やサイズ変更を行ったウィンドウに対してを実行した場合、先頭のメニューに移動しないことがあります。
- 実行後に、アクティブウィンドウの選択が解除される場合があります。
- アプリケーションによっては、メニューを表示中に、やなどサイズを変更するような機能を動作させた場合、メニュー表示が残ることがあります。
また、各ウィンドウ操作機能が動作しない場合があります。

◆各アイコンの機能一覧

ラウンチャーを閉じる	スタートメニューを開く
ウィンドウを最大化する/戻す	Windowsの終了メニューを開く
ウィンドウを閉じる	Explorerを起動する
ウィンドウのメニューに移動する	Outlook™ Express 4を起動する
ウィンドウを最小化する	モバイルフォンを起動する
ウィンドウのサイズを変更する	WORDPADを起動する
Esc キー	ダイヤルアップネットワーク画面を開く
Tab キー	アクセスポイント設定画面を開く
Enter キー	クイックラウンチャー環境設定画面を開く

クイックラウンチャー機能

●マウス操作モード時

ラウンチャー画面

ここを選んで（紫色表示させて）※ダブルクリックすると、選ばれたアイコンの操作が実行されます。操作実行後、ラウンチャー画面は自動的に閉じられます。

※選択したいアイコンをクリックすると、紫色表示されます。また、カーソルキーを使ってアイコンを選ぶ（紫色表示させる）こともできます。

お知らせ

・マウス操作モード時には、ラウンチャー画面のサイズと位置を必要に応じて変更できます。
画面のサイズにより、縦スクロールバーが表示されます。また、その際に、アイコンが半分隠れて表示される場合がありますが、動作には問題ありません。

・マウス操作モードとパッド操作モードの切り替えは環境設定で行います。（→44ページ）

3 ラウンチャーを終了する。

●パッド操作モード時

を表示させた状態で、そのアイコンに対応したスマートポインターの区画をダブルクリックする。
または右ボタンをクリックする。

●マウス操作モード時

ラウンチャー画面のを選んで（青色表示させて）、ダブルクリックする。

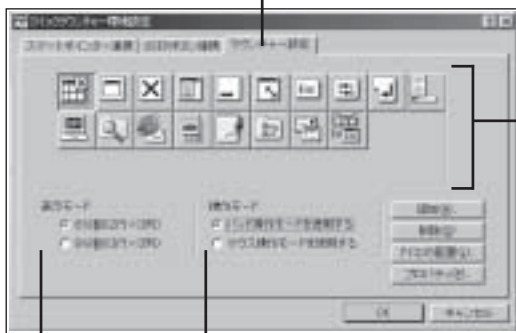
または通常のウィンドウ終了操作（タイトルバー上のをクリックするなど）を行う。

◆環境設定（ラウンチャー設定）

環境設定で、ラウンチャー画面に新しく操作を登録したり、すでに登録されている操作を削除したりします。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

タスクバーのクイックラウンチャーアイコンをダブルクリックする。
または、クイックラウンチャーアイコンをクリックして、[環境設定]をクリックする。

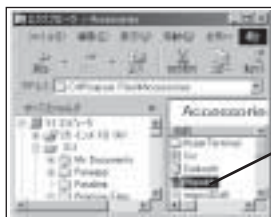
2 「ラウンチャー設定」タブをクリックする。

登録されている操作に対応したアイコンが表示されています。

操作モードを切り替えます。
工場出荷時は、パッド操作モードに設定されています。
各操作モードについて詳しくは→39〜42ページ

パッド操作モード時に、スマートポインターを６分割して管理するか、９分割して管理するかを切り替えます。工場出荷時には６分割に設定されています。

3 ラウンチャー画面への登録を変更する。

●アプリケーションを登録する場合

登録したいアプリケーションのプログラムを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

または、登録したい位置のアイコンをクリックして青色表示させて

[追加]ボタンをクリックし、

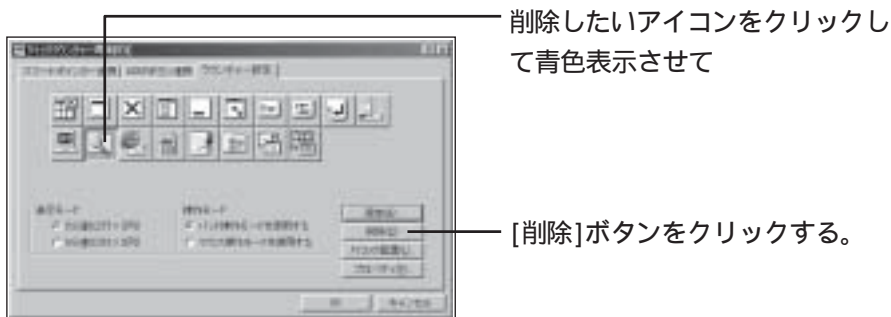
登録したいアプリケーションを選び、[開く]をクリックする。

お知らせ

登録できるファイルは、ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。
ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

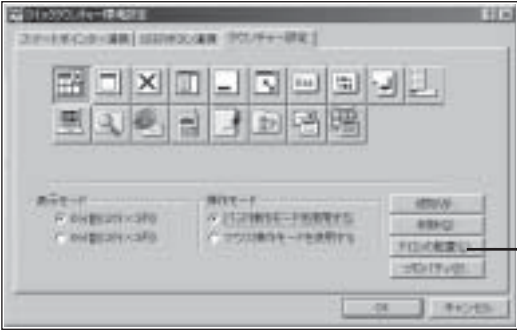
●アプリケーションを削除する場合

削除したいアイコンをクリックして青色表示させて

[削除]ボタンをクリックする。

お知らせ

最大24個まで登録できます。下記のアイコンは削除したり（→上記）、プロパティを変更したり（→47ページ）することができません。

●ラウンチャー画面上のアイコンの順番を並べ替える場合

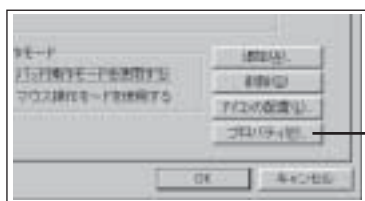
使う頻度の高い順に並べ替えておくと、ラウンチャー操作がしやすくなります。

①[アイコンの配置]をクリックし、

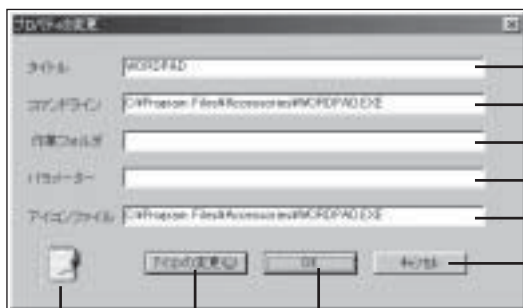
②アイコンをドラッグ＆ドロップして、位置を変更する。

1	2	3
4	5	6
7	8	9
10	11	12
13	14	15
16	17	18
19	20	21
22	23	24

アイコンは左記のように順番付けられています。
例えば、１を４の位置に移動すると、
２が１の位置へ、
３が２の位置へ、
４が３の位置へというように、順に空いた個所を埋めるように移動します。

③並べ替えが終了したら、[OK]をクリックする。

●プロパティを変更する場合

[プロパティ]をクリックすると

「プロパティの変更」画面が表示されます。

変更を保存します。

変更を取り消します。

アイコンファイルに設定されているアイコンの中から、アイコンを選択できます。

アイコン用のファイルを変更します。

起動パラメーターを変更します。

作業ディレクトリーを変更します。

「アイコンの変更」で選択したアイコンが表示されます。

ラウンチャー画面上でアイコンにカーソルを合わせたときに、表示されるメッセージを変更します。

コマンドのリンク先を変更します。

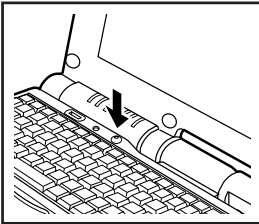
4 設定内容を確認して、「環境設定」プログラムを終了する。

[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

クイックラウンチャー機能

USERボタン連携

ユーザーボタンを押すと、Outlook™ Express 4**（以降**Outlook Express**と表記）を用いたメールの自動送受信*、またはあらかじめ登録しておいたアプリケーションの起動のいずれかを行えます。**
（*電子メール環境を設定しておく必要があります。→53ページ）

（例）工場出荷時

電子メール環境が設定されている場合にユーザーボタンを押すと、
Outlook Express**が起動され、自動的にメールの送受信が行われます。**

使いかた　便利

◆コンピューターの状態とユーザーボタンの動作

コンピューターの状態	ユーザーボタンの動作
電源オン	設定された機能を実行します。
電源オフ	電源を入れた後､設定された機能を実行します。*
休止状態	リジューム後、設定された機能を実行します。*
スタンバイ	リジューム後、設定された機能を実行します。*

＊ パスワードを設定している場合は､パスワード入力後、設定された機能が実行されます。

お願い

ユーザーボタンの機能を使用するときは
タスクバーにクイックラウンチャーアイコン が表示されていることを確認してください。（→29ページ「お願い」）
電源オン時のユーザーボタンの機能を一時的に中止したい場合は
タスクバーのクイックラウンチャーアイコン をクリックし、プルダウンメニューから「USERボタンを使わない」を選んでチェックマークを付けてください。

◆環境設定（USERボタン連携）

ユーザーボタンを押したときの動作を設定します。

1 「環境設定」プログラムを起動する。

タスクバーのクイックラウンチャーアイコン をダブルクリックする。
または、クイックラウンチャーアイコン をクリックして、[環境設定]をクリックする。

お知らせ

登録できるファイルは、ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。
ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

2 「USERボタン連携」タブをクリックする。

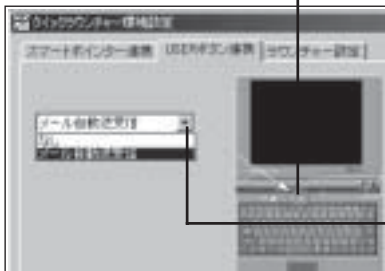
ここをクリックすると、各設定が工場出荷時の状態に戻ります。

ここをクリックすると、設定モードが切り替わります。

画面上の◎が緑色の場合は、
メールの自動送受信機能を設定できます。（工場出荷時には、すでに設定されています。ただし、この機能を使用するには、電子メール環境を設定しておく必要があります。→53ページ）

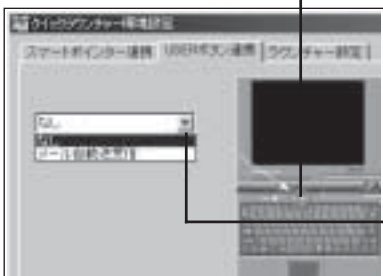
画面上の◎が黄色の場合は、
複数のアプリケーションを任意に登録できます。一連の操作に必要なアプリケーションを複数まとめて登録しておくと便利です。

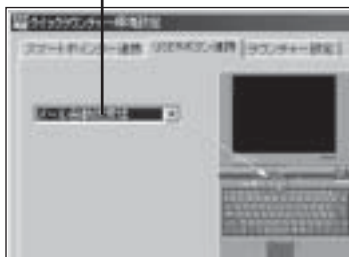
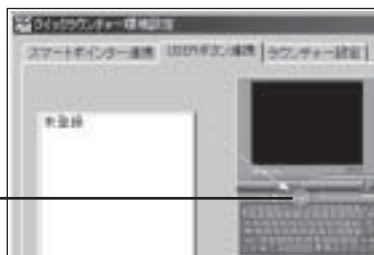
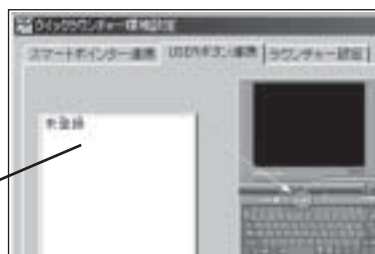
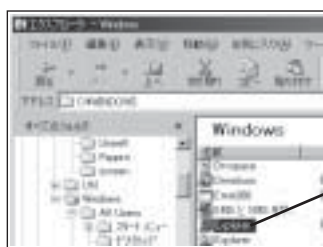
3 ●メールの自動送受信機能の設定を解除する場合（◎は緑色）

①◎が緑色になっていない場合は、クリックして、緑色にする。

②選択ボックスの右端の▼をクリックし、

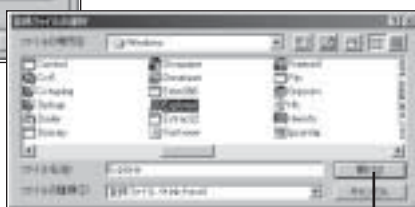
「なし」を選ぶ。

●メールの自動送受信機能を設定する場合（◎は緑色）

①◎が緑色になっていない場合は、クリックして、緑色にする。

②選択ボックスの右端の▼をクリックし、

「メール自動送受信」を選ぶ。

●アプリケーションを登録する場合（◎は黄色）

①◎をクリックして、
黄色にする。

②登録したいアプリケーションのプログラムアイコンを、登録ボックスにドラッグ＆ドロップする。

または、登録ボックスの項目のいずれかをクリックして反転表示させてから

[追加]ボタンをクリックし、

登録したいアプリケーションを選び、[開く]をクリックする。

使いかた

便利

お知らせ

登録できるファイルは、ショートカットファイルまたは実行ファイル（拡張子：EXE）です。
ただし、上記形式であっても、ファイルによっては登録できないものもあります。

●登録したアプリケーションを削除する場合（◎は黄色）

前ページ手順 ②で、
登録ボックスの削除したい項目をクリックし、

[削除]ボタンをクリックする。

4 設定内容を確認して、「環境設定」プログラムを終了する。

[OK]をクリックすると、変更内容を保存して、環境設定を終わります。
[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに、環境設定を終わります。

通信環境を設定する

インターネットに接続したり、電子メールの送受信を行ったりするためには、まず、下記の順序で通信環境を整える必要があります。
ここでは、プロバイダーHi-HOに加入し、内蔵のモデムまたは携帯電話インターフェースユニット（CF-VEFC33）[*1]を使って通信を行う場合を例にして説明します。

*1 Kモデル にのみ付属されています。別売り品もあります。（→139ページ）

*2 Hi-HO以外のプロバイダーに加入される場合には、設定の方法および内容が異なります。それぞれのプロバイダーの説明書をご覧ください。

◆操作の流れ

電話回線に接続する （→下記）

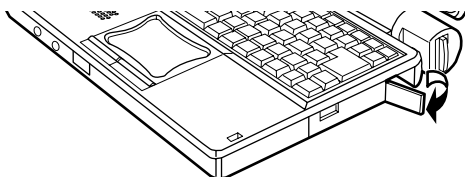
↓

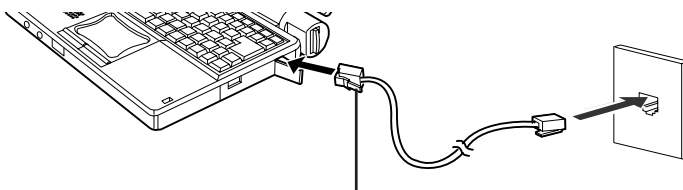
プロバイダー(Hi-HO)に加入する[*2] （→55ページ）

↓

インターネットや電子メールの通信設定をする[*2] （→57ページ）

電話回線に接続する

1 モデムと電話回線を接続する。

①モデムのコネクター部のカバーを開ける。

②付属のモジュラーケーブルで、コンピューターのモデムコネクターと電話コンセントをつなぐ。

突起部を手前側に向けながら、カチッと音がするまで差し込む。
取り外すときは、突起部を押さえながら引き抜いてください。

お知らせ

- 本機のモデム機能は日本国内においてのみ使用できます。NTT仕様の加入電話回線でご使用ください。（→10ページ）
- 電話回線のコネクターの形状によっては工事が必要な場合があります。

または、携帯電話インターフェースユニットを取り付ける。
（詳しくは→『携帯電話インターフェースユニット取扱説明書』）

2 電話回線の種類を設定する。

①[コントロールパネル]の[モデム]をダブルクリックする。

②必要な項目を入力し、[閉じる]をクリックする。

- 「国/地域番号」では「日本」を選んでください。
- 携帯電話やPHSをお使いになる可能性がある場合は、「市外局番」には「０」を入力してください。
- 「ダイヤル方法」では、回線の種類を正しく選んでください。
  トーン：ダイヤル中「ピッポッパ」と音がする回線
  パルス：ダイヤル中「ピッポッパ」と音がしない回線
  携帯電話やPHSはトーンです。
  ご使用中の電話回線の種類がわからない場合は、お近くのNTTにお問い合わせください。

③「モデムのプロパティ」画面で[OK]をクリックする。

お願い

「ダイヤルのプロパティ」の設定は、すべてのモデムに共通です。
「ダイヤル方法」が使用環境により異なる場合は、その都度、変更する必要があります。

プロバイダー(Hi-HO)に加入する

インターネットに接続したりするためには、いずれかのプロバイダー（接続サービスを行う会社）に加入する必要があります。ここでは、プロバイダーHi-HOへの加入のしかたについて説明します。
クレジットカードの情報を入力する必要がありますので、お手元にカードを準備してください。

1 **デスクトップ上の[Hi-HO入会手続き]アイコンをダブルクリックする。**

2 **使用するモデムを選んで[OK]をクリックする。**

内蔵モデムの場合：
Panasonic Internal Modem
携帯電話インターフェースユニットの場合：
Panasonic CF-VEFC33

3 **「...チェックのために通信を開始します」というメッセージが表示されたら[OK]をクリックする。**

> **接続できない場合**
> モジュラーケーブルまたは携帯電話は正しく接続されているか、電話回線の種類は正しく設定されているかを確認してください。（→53,54ページ）

4 **「Hi-HOの会員規約」を読んで[次へ]をクリックする。**

5 **「ご案内」を読んで[次へ]をクリックする。**

6 **「サービス内容・料金表」の内容を読んで[次へ]をクリックする。**

通信環境を設定する

7 「Hi-HO入会手続き」の各項目を設定し、[次へ]をクリックする。

「FAX番号」と「既にお持ちのE-Mailアドレス」以外は、必ずご記入ください。「住所」には、ビル名や部屋番号等まできちんと入力してください。きちんと入力されていないと、Hi-HOから資料などを郵送できない場合があります。

8 「お申し込みコース」を選び、「ご希望のメールアドレス名」を記入して、[次へ]をクリックする。

メールアドレス名は、重複しない範囲で自由に決めることができます。

9 アンケートに答えて[登録]をクリックする。

アンケートの内容：ご利用パソコン・接続方法・お勤め先・学校・ご職業

お知らせ

- **加入手続きを終了すると**
  画面上に「ID」「パスワード」「メールアドレス」「メールパスワード」が表示されます。*（このとき表示されるパスワードは仮のものです。）また、サーバー情報*やアクセスポイント一覧も表示されます。
  すぐに通信を始めたいかたは、メモなどに控えてください。
  * これらの情報は、「c:\hi-ho.txt」に保存されていますので、そちらをご覧になることもできます。
    加入手続きを終えてから約10日後に、正式なパスワードやその他の資料などが郵送で届けられます。

インターネットと電子メールの通信設定をする

Hi-HOからユーザー名やメールアカウントを取得したら、次はインターネット通信や電子メールの送受信のために必要な設定を行います。Hi-HOから送られてきた説明書もよくご覧の上、操作してください。

<インターネット接続ウィザードの設定>

1 デスクトップ上の[インターネットに接続]アイコンをダブルクリックする。

2 オプションを選ぶ。

「電話回線またはLAN経由でのインターネットサービスが既にある。...」を選んで、[次へ]をクリックする。

3 オプションを選ぶ。

「インターネットサービスプロバイダやLANを使用してインターネットにアクセスしている場合はこのオプションを選んでください」を選んで、[次へ]をクリックする。

使いかた

コミュニケーション

4 インターネット接続の設定をする。

①「電話回線を使って接続する」を選んで、[次へ]をクリックする。
②モデムの選択画面が表示されたら、使用するモデムを選択して[次へ]をクリックする。
内蔵モデムの場合：Panasonic Internal Modem
携帯電話インターフェースユニットの場合：Panasonic CF-VEFC33
③Hi-HOのアクセスポイントの電話番号を入力して[次へ]をクリックする。
④Hi-HOから送られてきたユーザー名とパスワードを入力して[次へ]をクリックする。
⑤詳細設定の変更画面では[はい]をクリックして、[次へ]をクリックする。
⑥「PPP(Point to Point) プロトコル」を選んで[次へ]をクリックする。
⑦「ログオン時には何も入力しなくてよい」を選んで[次へ]をクリックする。
⑧IPアドレスの設定画面で、「インターネットサービスプロバイダが自動的に割り当てる」を選んで[次へ]をクリックする。
⑨DNSサーバーアドレス設定画面で、「常に使用する設定」を選び、DNSサーバーには「202.224.128.6」と入力し、別のDNSサーバーには「202.224.128.50」と入力して[次へ]をクリックする。
（アドレスは、変更される可能性があります。詳しくは「c:\hi-ho.txt」ファイルまたはHi-HOから送られてきた説明書をご覧ください。）
⑩ダイヤルアップ接続名を入力して[次へ]をクリックする。
例：Hi-HO神戸　内蔵モデム

お知らせ

他の通信ソフトなどからダイヤルアップ接続設定を行ったことがある場合

手順③で、右のようなダイヤルアップ接続を設定する画面が表示されます。
画面のメッセージに従って操作してください。設定内容については上記手順を参考にしてください。

5 インターネットメールの設定をする。

①[はい]をクリックし、[次へ]をクリックする。

②電子メール送信時に「差出人」欄に表示したい名前を入力して、[次へ]をクリックする。

③Hi-HOから送られてきたメールアドレス名を入力して、[次へ]をクリックする。

④電子メールサーバー名を入力して、[次へ]をクリックする。

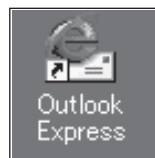
- 受信サーバーの種類では、「POP3」を選んでください。
- 受信メールサーバー名・送信メールサーバー名については、「c:\hi-ho.txt」ファイルまたはHi-HOから送られてきた説明書をご覧ください。

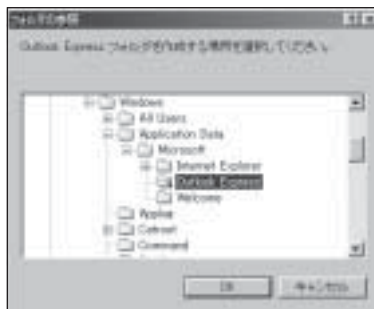
⑤Hi-HOから送られてきたメールアカウント名とメールパスワードを入力して、[次へ]をクリックする。

⑥①～⑤の設定内容に対して、自由に名前を付けて、[次へ]をクリックする。
ここで付けた名前は、Outlook Expressのアカウント設定の中で、
設定のタイトル（アカウント名）として表示されます。（→次ページ）

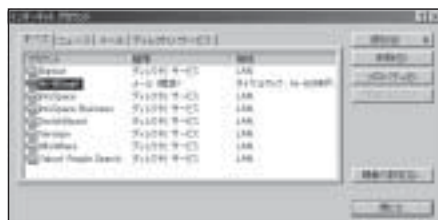
6 インターネットニュースなどを使用する場合は、画面のメッセージにしたがって各設定を行う。設定がすべて終わったら、[完了]をクリックする。

＜Outlook Expressの設定＞

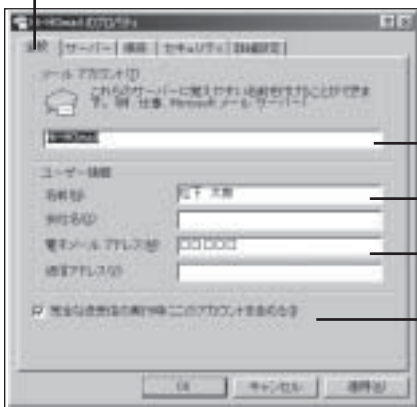
7 デスクトップ上の[Outlook Express]アイコンをダブルクリックする。

通信環境を設定する

8 「Outlook Expressフォルダ」を作成する場所を確認（指定）して、[OK]をクリックする。

9 ここでは、まだ、接続しないので、[接続へダイヤルしない] を選んで[ＯＫ] をクリックする。

10 [ツール]→[アカウント] をクリックする。

11 前ページの手順*5*の⑥で設定したアカウント名を選んで [プロパティ] をクリックする。

12 メールのプロパティの各設定を行う。

＜全般の設定＞

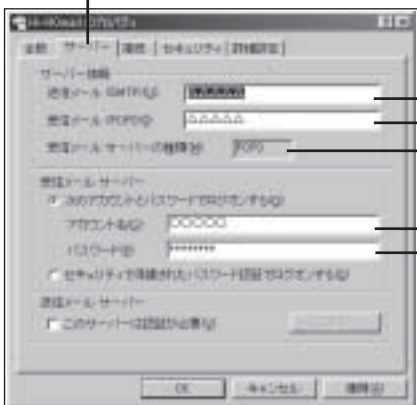
[全般]タブをクリックする。

手順5の⑥で設定した名前が表示されます。

手順5の②で設定した差出人の名称が表示されます。

手順5の③で設定したメールアドレス名が表示されます。

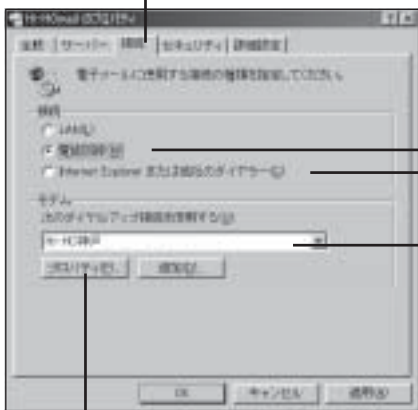
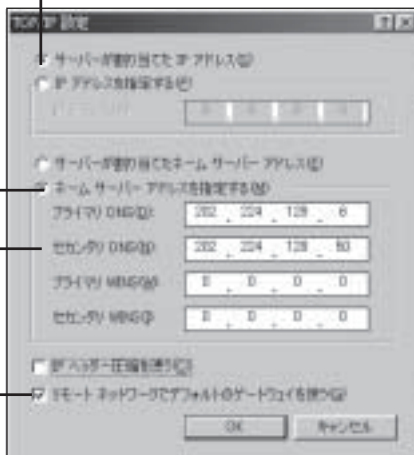
ユーザーボタンを使用して、自動的にメールの送受信を行いたい場合は、必ず、チェックマークを付けてください。

＜サーバー設定＞

[サーバー]タブをクリックする。

手順5の④で設定したメールサーバー名が表示されます。

「POP3」から変更しないでください。

手順5の⑤で設定したアカウント名とパスワードが表示されます。

通信環境を設定する

＜接続の設定＞
[接続]タブをクリックする。
ユーザーボタンを使用しないで、手動で電子メールの送受信を行う場合は、「電話回線」を選ぶ。
ユーザーボタンを使用して、自動的にメールの送受信を行いたい場合は、「Internet Explorerまたは他社のダイヤラー」を選ぶ。
（「ユーザーボタンを使ってメールを送受信する」→65ページ）
使用するダイヤルアップを表示されていることを確認して、[プロパティ]をクリックする。
[サーバーの種類]タブをクリックし、
「PPP：インターネット、Windows NT Server、Windows 98」と表示されていることを確認し、
[TCP/IP設定]をクリックする。
チェックマークを付ける。
「TCP/IP(T)」にチェックマークを付ける。
手順4の⑨で設定したアドレスが表示されています。
チェックマークを付ける。

必要に応じて「セキュリティ」や「詳細設定」を行ってください。

13 メールのプロパティの設定を終了する。

設定ウィンドウを開いたままで変更を保存する場合は[適用]を、
変更を保存して設定ウィンドウを閉じる場合は[OK]を、
保存しないで設定ウィンドウを閉じる場合は[キャンセル]を
クリックする。

お願い

59ページ手順6でインターネットニュースアカウントを設定した場合、ユーザーボタンを使用してメールの自動送受信を行うときは、インターネットアカウント画面の「ニュース」の「プロパティ」の「接続」で「Internet Explorerまたは他社のダイヤラー」を選んでください。

14 「インターネットアカウント」画面で、[閉じる]をクリックする。

15 送信の形式を設定する

①[ツール]→[オプション]をクリックし、[送信]タブをクリックする。
②「メールの送信の形式」で「テキスト形式」を選び、[設定]をクリックする。
③「メッセージ形式」で「MIME」にチェックマークを付け、「エンコード方法」で「なし」を選ぶ。
- 「８ビットの文字をヘッダーに使用する」のチェックマークを外しておいてください。

④[OK]をクリックしてオプション設定画面に戻り、「受信したメッセージと同じ形式で返信する」のチェックマークを外す。
⑤[OK]をクリックする。

お願い

ユーザーボタンを使用して、自動的にメールを送受信する場合は、「ファイル」メニューの「オフライン作業」のチェックマークを外しておいてください。
また[ツール]→[オプション]→[送信]設定で「メッセージを直ちに送信する」のチェックマークを外しておいてください。

インターネットに接続する

通信環境の設定が終わったら（→57～63ページ）、「Internet Explorer」を使ってインターネットに接続してみましょう。

1 デスクトップ上の[Internet Explorer]アイコンをダブルクリックする。

2 [接続]をクリックする。

・ユーザー名とパスワードには、58ページの手順*4*の④で設定した値が、表示されます。

・ユーザーボタンを使用して、自動的にメールの送受信を行いたい場合は、必ず、「パスワードを保存する」にチェックマークを付けておいてください。

「The Microsoft Network」のスタートページが表示されます。

スタートページの内容は、随時、変更されています。左記は画面例の一例です。実際の内容とは異なる場合があります。

●接続を切断する場合

[ファイル]→[閉じる]をクリックしてください。

電子メールの送受信を行う

通信環境の設定が終わったら（→57～63ページ）、「Outlook Express」を使って電子メールを送受信してみましょう。

ユーザーボタンを使ってメールを送受信する

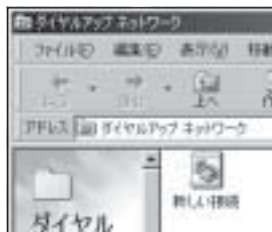
ユーザーボタンを押すだけで、メールを自動的に送受信することができます。
この機能を使用するには、次の設定をしておく必要があります。

1. USERボタン連携を設定する。（→48～52ページ）
   工場出荷時には設定されています。
2. 通信環境を設定する。（→53～63ページ）
・Outlook Expressの[ツール]→[アカウント]→[プロパティ]→[接続]設定では、必ず「Internet Explorerまたは他社のダイヤラー」を選んでください。（→62ページ）LANを使用する場合には接続設定を上記のように行い、アクセスポイントの設定で「ダイヤルしない」を設定してください。（→67ページ）
3. ダイヤルアップネットワークとアクセスポイントの設定をする。（→下記）

◆ダイヤルアップネットワークとアクセスポイントの設定

＜ダイヤルアップネットワークの設定＞

1 [スタート]→[プログラム]→[アクセサリ]→[通信]→[ダイヤルアップ ネットワーク]をクリックする。

2 [新しい接続]をダブルクリックする。

3 接続設定にタイトルを付けてモデムを選択し、[次へ]をクリックする。

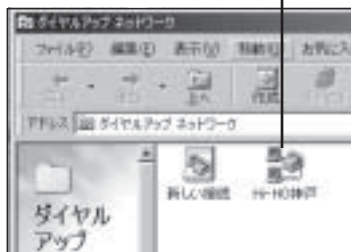
タイトルの例：
「Hi-HO 大阪 内蔵モデム」
「Hi-HO 大阪 携帯」

使いかた　コミュニケーション

電子メールの送受信を行う

4 接続先の電話番号を入力して、[次へ]をクリックする。

5 [完了]をクリックする。

設定した接続のアイコンが追加されます。

6 プロパティの設定を行う。

①アイコンを右ボタンでクリックして「プロパティ」を選択する。

②「サーバーの種類」タブをクリックする。

③「ダイヤルアップサーバーの種類」と「TCP/IP設定」をプロバイダーに応じて設定する。（→62ページ）

お知らせ

上記手順に従って、アクセスポイントごとにダイヤルアップ接続を設定しておいてください。同じアクセスポイントであっても、使用するモデムが2種類以上あるときは、モデムごとに分けて設定しておく必要があります。（手順*2*～*6*）
例えば、Hi-HO神戸に内蔵モデムと携帯電話インターフェースユニットの両方からダイヤルしたい場合は、それぞれに対してダイヤルアップ接続を分けて設定しておきます。

＜アクセスポイントの設定＞

1 [スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[アクセスポイント設定]をクリックする。

または、ラウンチャーを起動し（→40ページ）、アクセスポイント設定アイコンをダブルタップする。

2 「アクセスポイント一覧」から自動接続したいダイヤルアップ接続を選んで、[追加]をクリックする。

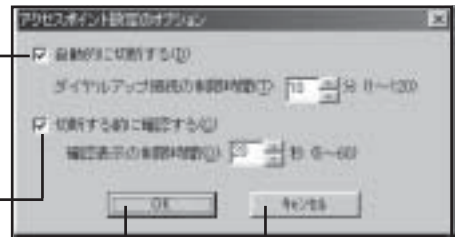
LANを使用する場合は、「ダイヤルしない」の左側の□にチェックマークを付けてください。

追加ボタンで選んだダイヤルアップ接続の名称は、「自動接続する優先順位」に移動します。「自動接続する優先順位」の上位に表示されているものから、優先的に接続されます。

「アクセスポイント一覧」には、登録済みのダイヤルアップ接続の名称が表示されています。

「自動接続する優先順位」に表示されているダイヤルアップ接続を選んで、[オプション]をクリックする。

3 オプション設定をする。

メールの送受信後に回線を切断したい場合は、チェックマークを付けてください。また「...接続の制限時間」で設定した時間が経過すると、メールの送受信中であっても強制的に回線が切断されます。（工場出荷時は10分に設定されています。）

回線を自動的に切断する際に、確認メッセージを表示したい場合は、チェックマークを付けて時間を設定してください。（工場出荷時は20秒に設定されています。）

変更を保存します。

変更を取り消します。

4 アクセスポイント設定画面で[OK]をクリックする。

[キャンセル]をクリックすると、変更内容を保存せずに終了します。

使いかた

コミュニケーション

電子メールの送受信を行う

◆ユーザーボタンを使ってメールを送受信する

1 ユーザーボタンを押す。

あらかじめ設定された内容に基づいてアクセスポイントに接続します。
- 相手が話し中の場合は、1分間隔で3回まで接続を試みます。3回とも話し中の場合やその他のエラーが発生した場合は次のアクセスポイントへの接続を開始します。
- すでに、他の接続が行われている場合は、確認画面で[継続]をクリックしてください。
- そのアクセスポイントへの接続がはじめての場合、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されますので、それぞれを入力して「パスワード保存」にチェックを付け、[接続]をクリックしてください。

自動的にOutlook Expressが起動し、メールを受信します。
また、送信トレイに送信用メールがある場合は（→下記「お願い」）、そのメールを送信します。うまく送信できない場合→131ページ

メールの送受信が終了したら、回線の切断を確認する画面が表示されます。
（アクセスポイントのオプション設定で設定している場合のみ→前ページ）

お願い
- メールの送受信が完了するまで、キーやスマートポインターは操作しないでください。
- メールの送受信中にエラーメッセージ画面が表示された場合は、「非表示」ボタンをクリックしてください。回線の切断を確認する画面が表示されます。

送信トレイにメールを入れるには
[ツール]→[オプション]→[送信]設定で、「メッセージを直ちに送信する」のチェックマークを外しておき、メール作成後、送信ボタンを押してください。

手動でメールを送受信する（ユーザーボタンを使用しない）

メールの送受信を行うには、通信環境を設定しておく必要があります。（→53〜63ページ）

- Outlook Express**の[ツール]→[アカウント]→[プロパティ]→[接続]設定では、「電話回線」を選んでください。**LAN**を使用する場合は「**LAN**」を選んでください。（→62ページ）**

1 **デスクトップ上の[**Outlook Express**]アイコンをダブルクリックする。**

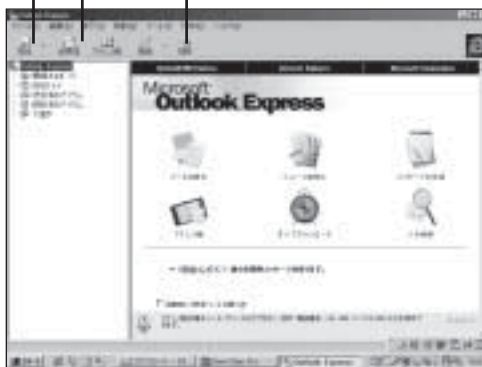
2 **接続先を選んで[OK] をクリックする。**

「Outlook Express」**の初期画面が表示されます。**
文書を作成したいときは、ここをクリックします。

ここをクリックすると、メールを受信できます。また、送信トレイにあるメールが送信されます。
うまく送信できない場合→131ページ

終了時には、必ず、ここをクリックして回線を切断してください。

使いかた

コミュニケーション

その他の通信機能を使う

モバイルフォン

モバイルフォン機能を使うと、コンピューター上で電話の発着信、FAXの送受信などを行うことができます。ここでは、主な機能ついて簡単に説明します。
使いかたについて詳しくは、別冊の説明書『モバイルフォン取扱説明書』をご覧ください。

＜ハンズフリーホン機能＞
　マイクとスピーカーを使って電話として使用できる機能です。受話器を持たずに会話できます。

＜留守番電話機能＞
　留守番電話機能を設定しておくと、電話をかけてきた相手のメッセージは音声ファイルとしてコンピューターに保存できます。

＜FAX機能＞
　アプリケーションソフトで作成した文章などをファクス送信できます。印刷する手間が省けて大変便利です。また、受信したファクスは、TIFデータとしてハードディスク上に保存できます。

＜アドレス帳機能＞
　Windows標準の「アドレス帳」（Outlook Express）に相手先の電話番号を登録しておけば、何度も相手先の電話番号を入力する手間が省けて大変便利です。

内蔵のモデム以外を使用するとハンズフリーホン機能および留守番電話機能は使用できません。

ムービーメール

カメラユニット（CF-VECC33）※をお持ちのかたのみ利用できる機能です。
ムービーメール機能を使うと、カメラから録画した画像とマイクから録音した音声を1つのファイルにして電子メールで送信することができます。メールの受信側では特定のアプリケーションをインストールしなくてもすぐにこのファイルを再生することができます。使いかたについて詳しくは『カメラユニット取扱説明書』をご覧ください。

VideoLink™ PCテレビ電話ソフトウェア

カメラユニット（CF-VECC33）※をお持ちのかたのみ利用できる機能です。
LANや通常の電話回線を使って、パソコンをテレビ電話として使用できます。
また、ファイルを転送したり、表示ウィンドウの画像を取り込みBMP形式のファイルに保存することもできます。
使いかたについて詳しくは『カメラユニット取扱説明書』をご覧ください。

※Cモデル　にのみ付属されています。
カメラユニットは、Windows上ではPCカードとして認識されます。カメラユニットを接続後、「コントロールパネル」の「PCカード（PCMCIA）」を開くと、ソケット２に「Panasonic CF-VECC33 Capture Device」と表示されます。

お知らせ

- 内蔵モデムのコマンド一覧を、オンラインマニュアルで用意しています。必要に応じてご利用ください。（オンラインマニュアルの見かた→120ページ）
- 補足説明（[スタート]→[プログラム]→[Panasonic]→[補足説明]）には、使用上のお願いなど最新情報が記載されている場合があります。あわせてご覧ください。

赤外線通信をする

本機の赤外線通信ポートを使うと、赤外線通信機能を持ったほかのコンピューターとケーブルを接続することなく通信することができます。
ここでは、「Intellisync® for Notebooks」（以降、Intellisyncと表記します）を使って、赤外線通信を行う場合を例にして説明します。

1 互いのコンピューター上で、赤外線通信ポートを使用可能に設定しておく。

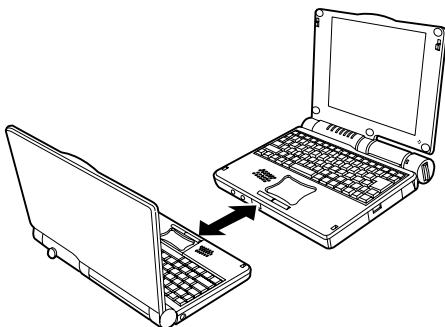
・本機では、「スーパーバイザー設定」の「赤外線ポート」でアドレスを設定し、「赤外線ポート：ASKモード」を「無効」に設定する。（→116、117ページ）
・「コントロールパネル」の「赤外線モニタ」の「オプション」で「赤外線通信を使用可能にする」のチェックマークを外す。
工場出荷時にはどちらも、上記の設定になっています。

2 必要に応じて互いのコンピューターのボーレートを設定する。

①[スタート]→[プログラム]→[Intellisync]→[Intellisync エージェント]をクリックする。
②説明画面が表示されるので、よく読んだ後、[OK]をクリックする。
③[接続設定マネージャ]アイコンをクリックする。
アイコンの名前を確認したいときは、カーソルをそのアイコン上に移動させてください。
④はじめて「Intellisync エージェント」を起動したときは、「使用許諾同意書」画面が表示されるので、内容を確認の上、「承諾する」をクリックする。
⑤説明画面が表示されるので、よく読んだ後、[閉じる]をクリックする。
⑥[ローカルデバイス]タブをクリックし、「赤外線のデバイス」の左横の⊞をクリックする。
⑦「赤外線デバイス」の下から使用するデバイスを選んで、[プロパティ]をクリックする。
⑧「接続を可能にする」の左側の□をクリックし、チェックマーク✓を付ける。
⑨[IRウィザード]をクリックし、画面の指示に従って、ボーレートを設定する。
・ボーレートは、2つのコンピューターを比べて小さい方の値に合わせてください。その他の設定は工場出荷状態から変更する必要はありません。
⑩「ポートのプロパティ」画面に戻ったら[OK]をクリックする。
⑪[OK]をクリックして、「接続設定マネージャ」画面を閉じる。

3 互いのコンピューターを赤外線通信が行えるように設置する。

設置時に気をつけること

・お互いのポートが真正面に向きあうように設置する。
・ポート間の距離を20〜50cmの範囲に設置する。

お知らせ

以下のような場合うまく通信できません。
・お互いのポート間に障害物があるとき
・近くでテレビ、ビデオ、ワイヤレス・ヘッドホン、ストーブなどが動作しているとき
・直射日光や蛍光燈、白熱灯などの光がポートにあたっているとき

4 赤外線通信を行う。

ファイル転送などの操作について詳しくは、各機能のヘルプをご覧ください。

お願い

各機能の画面を開いている状態では、スタンバイおよび休止状態に入らないでください。リジューム後、各機能が正常に動作しなくなります。

5 赤外線通信を終了する。

「ファイル転送」や「シンク」の画面では、[ファイル]→[閉じる]をクリックする。

Intellisyncエージェントも終了する場合は、メイン画面の右上の☒をクリックする。

お知らせ

[スタート]→[プログラム]→[Intellisync]→[メイクディスク]でIntellisyncのバックアップディスクを作成することができます。バックアップディスクを作成するには、2HDのフロッピーディスクが10枚必要です。

省電力設定をする

外出先などコンセントのない場所では、コンピューターをバッテリーだけで使うことが多くなります。次のようなことに注意して、バッテリーを効率よく使いましょう。

省電力のコツ！

●使わないときは電源を切る（→21ページ）

● Fn + F2 でディスプレイの明るさを調整（暗く）する（→122ページ）

● Fn + F10 でスタンバイ状態にしてから席を外す（→123ページ）
スタンバイ状態に入ると、操作を再開するまでメモリー以外の電源が切れ*、電力の消費が抑えられます。操作を再開するときは、電源ボタンを押してください。

* 上記はWindows 98上で Fn + F10 を押した場合です。MS-DOSモードでの起動時に押すと、ハードディスクドライブモーターとディスプレイの電源のみが切れます。

●省電力機能を設定する（→80ページ）
「コントロールパネル」の「電源の管理」の「Panasonic省電力モード設定」で[省電力]に設定してください。

●自動的に休止状態に入るように設定する（→82ページ）
「コントロールパネル」の「電源の管理」の「Panasonic動作設定」で、スタンバイ状態から自動的に休止状態になるまでの時間を設定しておきます。
お使いのアプリケーションによっては、この機能が働かない場合もあります。

お願い

ネットワーク環境でお使いの場合

「電源の管理」の「Panasonic動作設定」で「スタンバイ状態から休止状態への移行」を設定しないでください。休止状態から操作を再開した後、ネットワーク接続できなかったり、コンピューターが正常に動作しなくなる場合があります。

シリアルコネクターなどに高速モデムやISDNのターミナルアダプターなどを接続して通信を行う場合、赤外線通信ポートで通信を行う場合、ユーザーボタンを使用してメールの送受信を行う場合

省電力の設定を有効にして高速通信を行うと通信が正常に行われない場合があります。設定した省電力の内容を一時的に無効にするには、Fn + F8 を押して が画面に表示（数秒間）されたことを確認してください。通信を終了したら電力の消費を押さえるために再度 Fn + F8 を押して省電力の設定を有効にしてください。

省電力設定をする

「電源の管理」

「電源の管理」を起動するには：
Windowsの[スタート]メニューから、[設定]→[コントロールパネル]をクリックし、[電源の管理]をダブルクリックします。
または、タスクバーの「電源の管理」アイコン（ACアダプター接続時）または（バッテリーで使用時）を右ボタンでクリックし、プルダウンメニューの「電源のプロパティの調整」をクリックします。

以下に、「電源の管理」の各設定について説明します。

◆電源設定

[電源設定]タブをクリックすると以下の画面が表示されます。

デフォルト設定時の画面例

＜電源設定＞
「ホーム／オフィスデスク」「ポータブル／ラップトップ」「常にオン」の中から選択します。工場出荷時は「ポータブル／ラップトップ」に設定されています。
「ホーム／オフィスデスク」を選択すると、各項目は自動的に次のように設定されます。（工場出荷時）

項目	電源に接続	バッテリを使用中
システムスタンバイ	20分後	1分後
モニタの電源を切る	15分後	3分後
ハードディスクの電源を切る	30分後	10分後

「ポータブル／ラップトップ」を選択すると、各項目は自動的に次のように設定されます。（工場出荷時）

項目	電源に接続	バッテリを使用中
システムスタンバイ	20分後	5分後
モニタの電源を切る	15分後	3分後
ハードディスクの電源を切る	30分後	3分後

「常にオン」を選択すると、各項目は自動的に次のように設定されます。（工場出荷時）

項目	電源に接続	バッテリを使用中
システムスタンバイ	なし	5分後
モニタの電源を切る	15分後	3分後
ハードディスクの電源を切る	1時間後	3分後

また、各項目を自由に設定し、その設定状態を「名前を付けて保存」しておくこともできます。

<システムスタンバイ>
コンピューターを放置してから、設定した時間後に、メモリー以外のすべての電源を切る機能です。操作を再開するときは、電源ボタンを押してください。
「コントロールパネル」の「画面」でスクリーンセーバーを設定している場合、システムスタンバイ機能が正常に動作しないことがあります。

<モニタの電源を切る>
コンピューターを放置してから、設定した時間後に、ディスプレイの電源を切る機能です。キーボードやマウスの入力などが発生すると、ディスプレイの表示は元に戻ります。
この機能を使用するときは、「コントロールパネル」の「画面」でスクリーンセーバーを設定しないでください。この機能とスクリーンセーバーの両方を設定していると、ディスプレイの電源が正常に復帰しなかったりスタンバイや休止状態から正常にリジュームできなかったりする場合があります。

<ハードディスクの電源を切る>
コンピューターを放置してから、設定した時間後に、ハードディスクの電源を切る機能です。ハードディスクのアクセスが発生すると、ハードディスクの電源が入ります。

◆アラーム

[アラーム]タブをクリックすると以下の画面が表示されます。

デフォルト設定時の画面例

＜バッテリ低下アラーム＞
バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリーの低下をアラームで知らせるよう設定します。
「電源レベルが次に達したらバッテリ低下アラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「3%」に設定されています。

＜バッテリ切れアラーム＞
バッテリー容量が一定のレベルに達したら、バッテリー切れをアラームで知らせるよう設定します。
「電源レベルが次に達したらバッテリ切れアラームで知らせる」にチェックマークを付け、%値を設定します。工場出荷時は「0%」に設定されています。

また、「アラーム動作」ボタンをクリックすると、「通知方法」と「電源レベル」を設定することができます。

通知方法	「音で知らせる」「メッセージを表示する」から選択します。工場出荷時は「メッセージを表示する」に設定されています。

電源レベル　「アラーム後のコンピュータの動作」を設定する場合は左側の□にチェックマークを付け、「スタンバイ」と「シャットダウン」から選択します。
工場出荷時は、「バッテリ低下アラーム」ではこの機能は設定されていません。「バッテリ切れアラーム」では「スタンバイ」に設定されています。

お知らせ

「アラーム後のコンピュータの動作」を設定した場合は、「プログラムが応答しない場合でも、スタンバイまたはシャットダウンする」の左側の□にチェックマークを付けておいてください。

◆電源メーター

コンピューターの電源の状態やバッテリー残量を確認することができます。
「各バッテリの状態を表示する」にチェックマークを付けると、標準バッテリーパックと別売りの拡張バッテリーパックの状態を個別に確認できます。
「＃１」が標準バッテリーパック（状態表示ランプA）、「＃２」が拡張バッテリーパック（状態表示ランプB）を表しています。
（工場出荷時には、チェックマークが付けられています。）
また、各バッテリーのアイコンをクリックすると、詳細情報が表示されます。

◆詳細

[詳細]タブをクリックすると、以下の設定を行うことができます。
<電源メーターをタスクバーに表示する>
タスクバーに「電源の管理」プログラムのアイコンを表示したい場合は、左側の□にチェックマークを付けてください。工場出荷時には、表示するように設定されています。
タスクバーのアイコンを左ボタンでクリックすると、プルダウンメニューが表示され、そのメニューから電源設定を切り替えることができます。
また、右ボタンでクリックし、プルダウンメニューの「電源のプロパティの調整」を選ぶと、「電源の管理」プログラムが起動します。

省電力設定をする

＜スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める＞
左側の□にチェックマークを付けておくと、スタンバイ状態からの復帰時にパスワードの入力が必要になります。工場出荷時は、この機能は設定されていません。（チェックマークは付いていません。）
スタンバイからの復帰時に「パスワードの入力」画面が表示されたら、Windowsのパスワード*を入力してください。
*Windowsのパスワードは、「はじめて使うとき」の手順7の⑤（→18ページ）で設定したものを使用してください。また、「コントロールパネル」の「パスワード」で設定し直すこともできます。

◆OPL3-SAx電源管理

音源の電力管理を行います。
＜電力消費の程度＞
パワーセーブモードに入ったときに電力の消費をどの程度節約するかを設定します。工場出荷時は、「少し節約」に設定されています。

＜パワーセーブするまでの時間＞
何秒間、音源の電力が使用されなかったら、パワーセーブモードに入るかを設定します。工場出荷時は5秒に設定されています。

＜強制的にパワーセーブ＞
この機能を有効にすると常にパワーセーブモードになります。

◆Panasonic省電力モード設定

[Panasonic省電力モード設定]タブをクリックすると以下の画面が表示されます。

デフォルト設定時の画面例

設定値を標準（デフォルト）の状態に戻す

＜省電力モード＞
「標準」を選択すると処理速度重視の設定になり、「CPUスピード：100%」、「LCDバックライト：明（最大）」に設定されます。「省電力」を選択すると消費電力重視の設定になり、「CPUスピード：25%」、「LCDバックライト：暗」に設定されます。「ユーザー設定」を選択すると、「CPUスピード」と「LCDバックライト」を自由に設定することができます。また、これらの設定は、Fn ＋ F8 で一時的に変更することができますが、コンピューター起動時にはここで設定した内容で動作します。

＜CPUスピード＞
「省電力モード」で「ユーザー設定」を選んだ場合のみ、CPUの動作速度を「100%」「75%」「50%」「25%」「12.5%」から選択します。

＜LCDバックライト＞
「省電力モード」で「ユーザー設定」を選んだ場合のみ、LCDバックライトの輝度を、４段階（明、中、暗、省電力）から選択します。暗くするほど消費電力は少なくなります。

＜標準に戻す＞
省電力モード設定のすべての設定を、工場出荷時の状態に戻します。

お知らせ
セットアップユーティリティーの「省電力設定」（→113ページ）でも同様の設定を行うことができます。

◆Panasonic動作設定

[Panasonic動作設定]タブをクリックすると以下の画面が表示されます。

デフォルト設定時の画面例

設定値を標準（デフォルト）の状態に戻す

省電力設定をする

＜ポータブルコンピュータを閉じたとき＞
LCDパネルを閉じたときの動作を選択します。「スタンバイ」を選択してLCDパネルを閉じると、スタンバイ状態になり、電源表示ランプが緑色に点滅します。LCDパネルを開くとリジュームします。電源ボタンでリジュームすることはできません。
「LCDをオフにする」を選択してLCDパネルを閉じると、LCDの電源が切れます。LCDパネルを開けるとLCDの電源が入ります。

お願い

「スタンバイ」に設定している場合は、電源表示ランプが緑色点滅するまで（完全にスタンバイ状態に入るまで）はLCDパネルを開けないでください。
途中でLCDパネルを開けると、スタンバイ状態に入ったままリジュームできなくなる場合があります。その場合は、再度LCDパネルを閉じた後、数秒たってからディスプレイを開けてください。

＜コンピュータの電源ボタンを押したとき＞
コンピューターの電源ボタンを押したときの動作を「スタンバイ」「休止状態」「強制電源断」から選択します。

＜スタンバイ状態から休止状態への移行＞
スタンバイ状態になってから、自動的に休止状態になるまでの時間を設定します。有効にするには、左側の□にチェックマークを付けて、実行までの待ち時間を「５分」「10分」「30分」「60分」「120分」から選択します。

＜内蔵モデムのリングによりスタンバイ状態から回復する＞
スタンバイ中に内蔵モデムの回線に電話がかかると、自動的にリジュームするように設定します。
「ポータブルコンピュータを閉じたとき」が「スタンバイ」に設定されていて、LCDパネルが閉じられているときは、この機能は働きません。

お知らせ

セットアップユーティリティーの「省電力設定」（→113ページ）でも同様の設定を行うことができます。

携帯電話を使って通信する

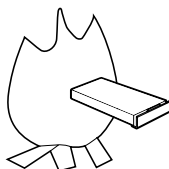
携帯電話ユニットインターフェース（CF-VEFC33）※をお持ちのかたのみ利用できる機能です。
コンピューターに携帯電話ユニットインターフェースを接続し、そこにお手持ちの携帯電話を装着すると、コードレスで通信操作を行うことができます。
外出先から電子メールやFAXの送受信を行ったり、インターネットに接続したりと大変便利です。
使いかたについて詳しくは『携帯電話インターフェースユニット 取扱説明書』をご覧ください。

※ **Kモデル** にのみ付属されています。それ以外のモデルをお使いのかたは、別途お買い求めください。
携帯電話インターフェースは、Windows上ではPCカードとして認識されます。携帯電話インターフェースを接続後、「コントロールパネル」の「PCカード（PCMCIA）」を開くと、ソケット２に「Panasonic CF-VEFC33」と表示されます。

バッテリーパックを使う

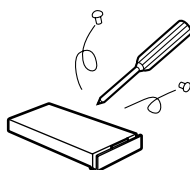
ここでは、バッテリーパックの取り扱いについての注意事項や取り付けかた、充電のしかたなどについて説明します。
稼動時間は、付属の標準バッテリーパックで約2.5時間*、別売りの拡張バッテリーパックで約5.5時間*、両方同時に使用した場合で約８時間*です。（*省電力モード時の表記です。）

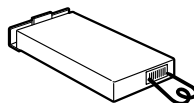
バッテリーパックに関する注意 ⚠危険

火中に投入したり加熱したりしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

ネックレス、ヘアピンなどといっしょに持ち運んだり保管したりしない

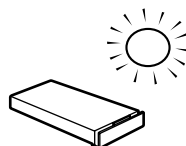
発熱・発火・破裂の原因になります。

クギで刺したり、衝撃を与えたり、分解・改造をしたりしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

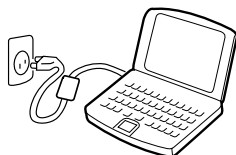
プラス(＋)とマイナス(－)を金属などで接触させない

発熱・発火・破裂の原因になります。

付属の充電式電池は、必ず本機で使用する

CF-C33シリーズ専用の充電式電池です。本機以外に使用すると、発熱・発火・破裂の原因になります。

火のそばや炎天下など、高温の場所で充電・使用・放置をしない

発熱・発火・破裂の原因になります。

バッテリーパックに関する注意 ⚠**危険**

指定された方法で充電する

取扱説明書に記載された方法で充電しないと、発熱･発火･破裂の原因になります。

取り扱い上のお願い

●バッテリーパックは一般のごみといっしょに廃棄しないでください。
端子をテープなどで絶縁してから、地方自治体の条例などに従い、廃棄してください。（本機のバッテリーパックは、リチウムイオン蓄電池を使用しています。）
●交換用のバッテリーパックをポケットやカバンに入れて持ち運ぶときは、端子部分がショートするのを防ぐために、ビニール袋に入れることをお薦めします。
●水などで濡らさないでください。端子がさびる原因となります。
●端子部分には触れないでください。端子が汚れると、接触が悪くなったり十分に充電できなかったりすることがあります。
●万一、破損によって電解液が流出し、皮膚や衣服についた場合は、直ちに大量の水で洗い流してください。もし、身体に異常を感じた場合は、医師にご相談ください。

使用温度についての留意点

●使用環境温度5～35℃の範囲で操作してください。
使用環境温度が低い場合、バッテリーの稼働時間が短くなります。
●通常の使用時にあたたかくなることがありますが、異常ではありません。

バッテリーパックを使う

取り付けかた/取り外しかた

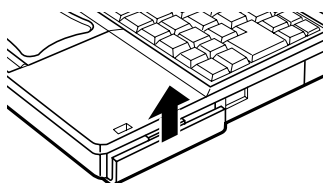
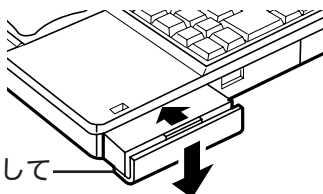
お願い

本機で使用できるバッテリーパックは、付属の標準バッテリーパック（CF-VZSU07）と別売りの拡張バッテリーパック（CF-VZSC33）です。その他のものは使用しないでください。

1 操作を終わり(→21ページ「電源を切る」)、電源が切れたことを確認してACアダプターを取り外す。

2 ●標準バッテリーパックを取り付ける。

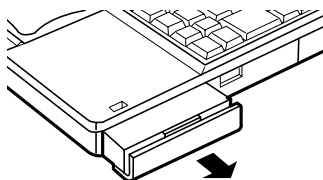
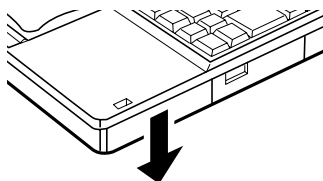
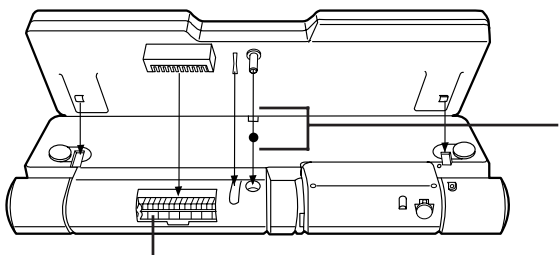
①バッテリーパックのフタを矢印の方向へ下げる。
②バッテリーパックを挿入する。

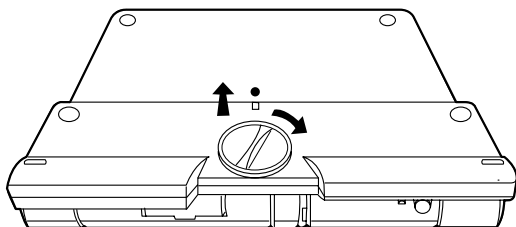
③バッテリーパックのフタを矢印の方向へ上げて閉める。

お願い

- 本機を縦にした状態では、挿入しないでください。
- 取り付け/取り外しの際にはコンピューター本体を少し上に持ち上げてください。
- 装着後、バッテリーパックのフタがロックされたことを確認してください。

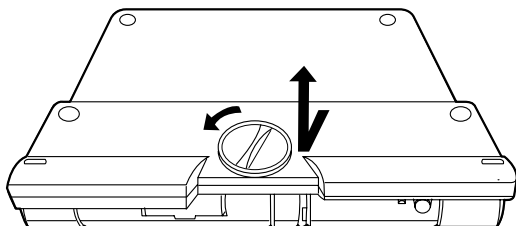
●標準バッテリーパックを取り外す。

①バッテリーパックのフタを矢印の方向へ下げる。

②バッテリーパックを引き出す。

●別売りの拡張バッテリーパックを取り付ける。

①本体を裏返して、コネクター部のカバーを開ける

②バッテリーパックの側面の突起物と本体底面の黒丸印●の位置を合わせて、バッテリーパックを本体の上に載せる。

③底面の黒い印が見えなくなるように矢印の方向にスライドさせる。
④ネジを締める。

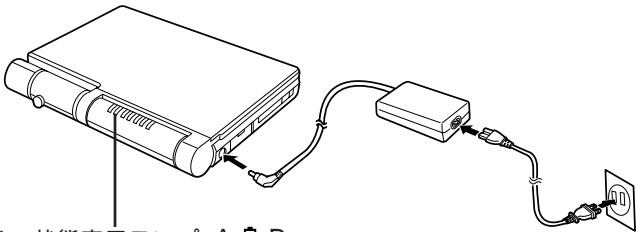
●別売りの拡張バッテリーパックを取り外す。

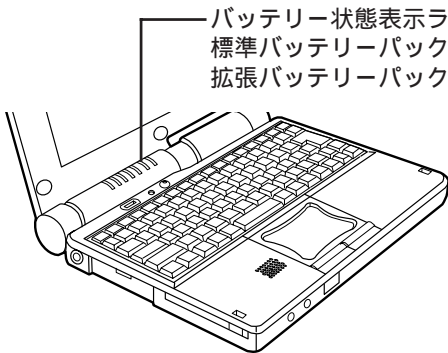
①本体を裏返す。

②ネジをゆるめる。
③矢印の方向に少しスライドさせてから上方向に取り外す。

バッテリーパックを使う

充電のしかた

**付属のバッテリーパックは、工場出荷時には充電されていません。
コンピューター本体にバッテリーパックを取り付けた状態でACアダプターを接続すると、自動的に充電が始まります。
標準バッテリーパックと別売りの拡張バッテリーパックの両方を取り付けている場合は、標準バッテリーパックから先に充電されます。標準バッテリーパックが満充電状態になったら、拡張バッテリーパックの充電が始まります。（ただし、放電は拡張バッテリーパック→標準バッテリーパックの順に行われます。）**

1 ACアダプターを接続する。

**バッテリー状態表示ランプ A-▯-B
標準バッテリーパック充電中：A側のランプがオレンジ色に点灯
拡張バッテリーパック充電中：B側のランプがオレンジ色に点灯**

2 充電状態を確認する。

**バッテリー状態表示ランプ A-▯-B
標準バッテリーパック充電完了：A側のランプが緑色に点灯
拡張バッテリーパック充電完了：B側のランプが緑色に点灯**

◆充電時間（使用条件により長くかかることがあります。）

		標準バッテリーパック（付属）	拡張バッテリーパック（別売）
電源	入	約5時間	約10時間
	切	約3時間	約4時間

お願い

- 長期間（約1か月以上）使わない場合は、バッテリーパックの性能維持のため、30〜40%程度の充電状態でコンピューターから取り外し、冷暗所に保管してください。
- バッテリーパックを長期間放置していた場合は、使用前に必ず充電してください。この場合、通常の時間で充電が終了しないことがありますが、故障ではありません。
- **本機では過充電を防ぐため、満充電に近い状態では再充電できないようになっています。電池残量が90%前後になるまで放電してから充電するようにしてください。**
- バッテリーパックは消耗品です。バッテリーの駆動時間が著しく短くなり、充電を何度繰り返しても性能が回復しない場合は、バッテリーパックの寿命です。新しいものと交換してください。
- 使用環境温度（5〜35°C）の範囲内で充電してください。使用環境温度の範囲外では、また、使用環境温度の範囲内であっても、使用条件によりバッテリーパックの温度が高温あるいは低温になりすぎているときには、充電できない場合があります。（このとき、バッテリー状態表示ランプはオレンジ色に点滅します。）このようなときは、室温を調節したり、しばらくコンピューターの使用を控えるなどしてください。バッテリーパックの温度が範囲内に戻ると、自動的に充電が始まります。
- 充電中、バッテリー状態表示ランプが赤色に点滅した場合は、内部の保護回路が働き、充電が中止された可能性があります。このような場合は、いったん、ACアダプターとバッテリーパックを本体から取り外し、再度、取り付けてください。また、このような現象が繰り返し起こる場合は、故障ということが考えられますので、お買い上げの販売店、または「ご相談窓口」にご相談ください。

バッテリーパックを使う

バッテリー残量の確認

バッテリー残量を確認するには、バッテリー状態表示ランプで確認する方法とファンクションキーを押して画面に表示されるアイコンで確認する方法（→下記）とWindows上の電源メーターで確認する方法（→79ページ）があります。

◆バッテリー状態表示ランプで確認する

ランプA：標準バッテリーパック用の状態表示ランプ
ランプB：別売りの拡張バッテリーパック用の状態表示ランプ

バッテリー状態表示ランプの状態	充電状態
オレンジ色に点灯	充電中
緑色に点灯	充電完了
赤色に点灯 （同時にアラーム音が鳴ります。）	バッテリー残量なし 充電が必要です。すぐにACアダプターを接続してください。ACアダプターがない場合は、動作中のプログラムを終了し、Windowsも終了して電源表示ランプが消えていることを確認してください。
オレンジ色に点滅	充電できない バッテリーパックの温度が使用環境温度の範囲外にあるため、充電できません。充電可能な温度に戻してから、再度、充電を始めてください。
赤色に点滅	バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。再度正しく装着し直してください。それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
消灯	バッテリーパックが装着されていません。あるいはACアダプターが接続されていません。

◆画面に表示されるアイコンで確認する（キー操作による残量表示）

電源が入っている状態で Fn キーを押しながら F9 キーを押して手を離すと、しばらくの間、画面上にバッテリーの残量を示すアイコンが表示されます。

A 78% ← 標準バッテリーパックの残量
B --% ← 拡張バッテリーパックの残量

・上記は、拡張バッテリーパック未装着時の一例です。
(バッテリーパックが装着されていない場合は、「- -%」と表示されます。)
・数値と実際の残量は、多少異なる場合があります。

使いかた モバイル

お知らせ

- バッテリー残量が少なくなるとスタンバイ状態に入ります。または自動的に電源が切れます（→78、79ページ）。そのような際には、ACアダプターを接続してください。
- 付属の標準バッテリーパックの場合で、電源が切れている状態でも、約80 mWの電力を消費します。満充電していても約１週間でバッテリー残量がなくなります。

バッテリー容量を正確に表示させるために

本機のバッテリーパックには、バッテリー容量を計測し、記憶・学習するための機能があります。この機能を正しく働かせて、バッテリー残量を正確に表示させるため、以下の手順にしたがって、満充電→完全放電→満充電の操作を行ってください。
この操作は、お買い上げ後、一度は行っておいてください。また、長くバッテリーパックをお使いの間には、バッテリーパックの劣化などにより残量が正確に表示されなくなる場合があります。その場合も、再度、この操作を行ってください。

お願い

下記手順*1*〜*3*の操作が完了するまでは、ACアダプターを取り外さないでください。バッテリー容量を正しく計測できなくなります。

1 バッテリーパック装着後、ACアダプターを接続する。

標準バッテリーパックと別売りの拡張バッテリーパックの両方を装着しておくことができます。
その他の周辺機器はすべて取り外しておいてください。

お願い

キー操作による残量表示では、100%と表示されるのに、バッテリー状態表示ランプがオレンジ色に点灯し続ける場合があります。異常ではありませんので、そのまま緑色になるまで充電を続けてください。

2 バッテリー状態表示ランプが緑色になったら、放電ツールを実行する。

バッテリーパックを２つ取り付けている場合は、標準バッテリーパック用のランプ（A）が緑色になった後、拡張バッテリーパック用のランプ（B）が緑色になります。両方のランプが緑色になってから、放電ツールを実行してください。

バッテリーパックを使う

お知らせ

* 満充電状態で放電ツールを実行した場合、自動的に電源が切れるまでに標準バッテリーパックのみの場合で約2時間、拡張バッテリーパックのみの場合で約4時間かかります。2つ取り付けている場合は約6時間かかります。

お願い

放電ツール実行後、自動的に電源が切れるまではコンピューターを操作しないでください。

①[スタート]→[Windowsの終了]→[MS-DOSモードで再起動する]を選んで、[OK]をクリックする。

②MS-DOSのプロンプト（C:\WINDOWS>）に続けて、以下のように入力する。

c:\panaapp\battref2 /g Enter

③確認のメッセージが表示されたら Y を押す。

バッテリー表示ランプが消灯する

↓

バッテリー表示ランプが赤点灯する

↓

バッテリーパックを２つ取り付けている場合は、拡張バッテリーパック用のランプ（B）が赤色になった後、標準バッテリーパック用のランプ（A）が赤色になります。

自動的にコンピューターの電源が切れる*

↓

充電が開始する

バッテリー状態表示ランプA、Bのどちらかがオレンジ色点灯したら、コンピューターの電源を入れてご使用になってもかまいません。

お願い

バッテリー状態表示ランプが緑色になるまでACアダプターを取り外さないでください。バッテリーパックを２つ取り付けている場合は、A、B両方のランプが緑色になるまで取り外さないでください。

使いかた

モバイル

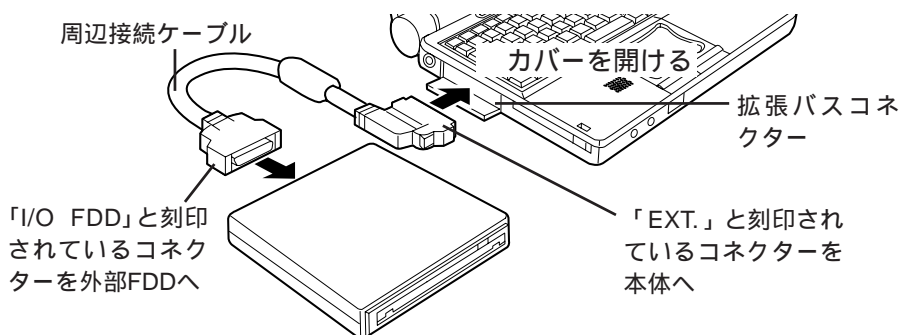
周辺機器を拡張する

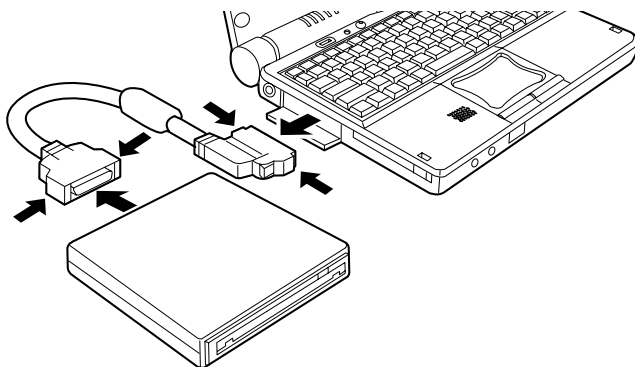
ここでは、フロッピーディスクドライブや別売りの周辺機器（I/Oボックス、外部ディスプレイ、プリンターなど）の接続のしかた、PCカードのセットのしかたなどについて説明します。

フロッピーディスクドライブを取り付ける／取り外す

付属のフロッピーディスクドライブ(外部FDD：CF-VFDU02)をご使用ください。

1 操作を終わる。(→21ページ「電源を切る」)

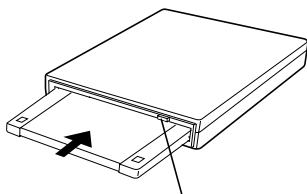
2 ●フロッピーディスクドライブを取り付ける。

②それぞれのコネクターを、向きに注意して両側のロックがかかるまで差し込む。

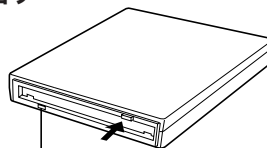
●フロッピーディスクドライブを取り外す。

ロック解除レバーを押しながらそれぞれのコネクターを引き抜く

使いかた

拡張

◆フロッピーディスクのセット/取り出し

セットする

フロッピーディスク取り出しボタンが飛び出すまで、確実に挿入する。

取り出す

ドライブアクセスランプが点灯していないことを確認した後、取り出しボタンを押す。

お願い

- ドライブアクセスランプ点灯中はフロッピーディスクを取り出さないでください。フロッピーディスク内のデータが壊れる恐れがあります。
- フロッピーディスクドライブを持ち運ぶときや保管しておくときには、必ず、フロッピーディスクは取り出してください。

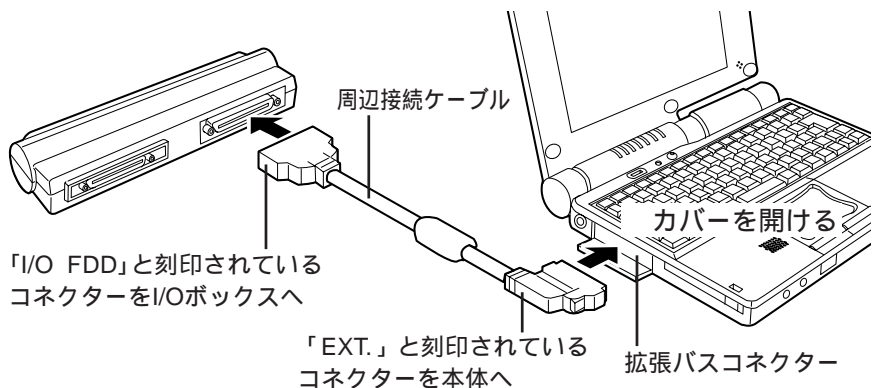
お知らせ

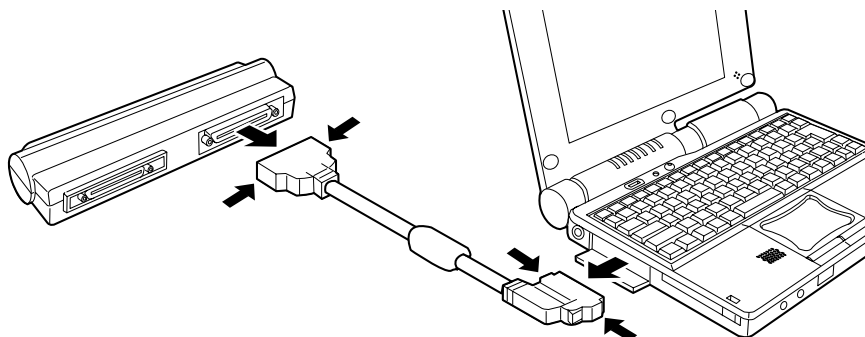
- **「読み出し」・「書き込み」とは**
  フロッピーディスクのデータを本体のメモリー上に送ることを「読み出し」、メモリー上のデータをフロッピーディスクに送り、記録することを「書き込み」といいます。
- **フォーマット**
  新しいディスクは、磁気的に区画整理する必要があります。この作業を「フォーマット」(初期化)といいます。
- **使用できるフロッピーディスクの種類と記録容量**
  フロッピーディスクには「2HD」と「2DD」の２種類があります。それぞれの記憶容量は次のとおりです。
  2HD　ー　1.44 Mバイト/1.2 Mバイト
  2DD　ー　720 Kバイト
  1.2 Mバイトのフロッピーディスクを読み書きするには、ドライバープログラムをインストールする必要があります。詳しくは、「1.2 Mバイトのフロッピーディスクの読み書き」（→104ページ）をご覧ください。

I/Oボックスを取り付ける／取り外す

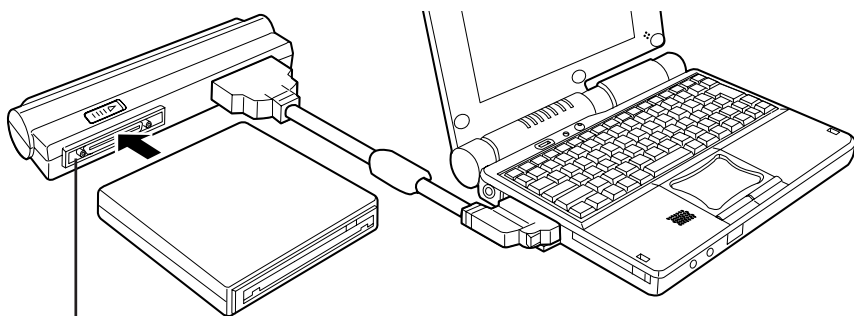
プリンターや外部ディスプレイなどを接続するときは、まず、本体に別売りのI/Oボックス（CF-VEBU01）を取り付けてください。

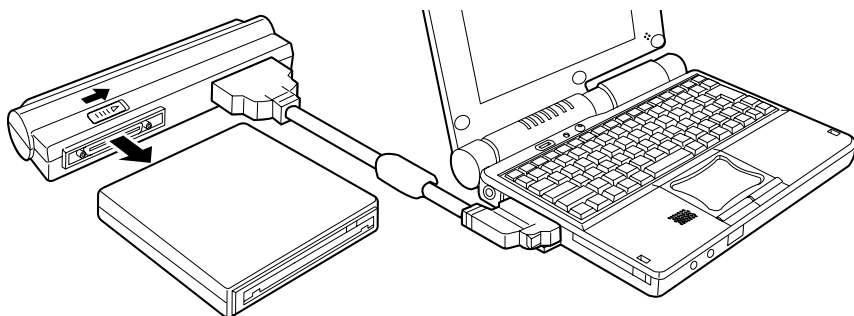
1 操作を終わる。(→21ページ「電源を切る」)

2 ●I/Oボックスを取り付ける。

②それぞれのコネクターを、向きに注意して両側のロックがかかるまで差し込む。

●I/Oボックスを取り外す。

◆I/Oボックスとフロッピーディスクドライブの両方を取り付ける場合

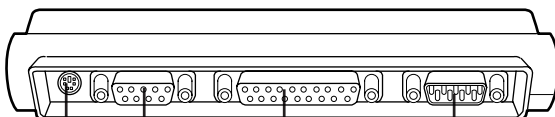
1 I/Oボックスを取り付ける。（→前ページ）

2 ●フロッピーディスクドライブを取り付ける。

コネクターの位置と向きに注意して、両側のロックがかかるまで差し込む。

●フロッピーディスクドライブを取り外す。

①フロッピーディスクドライブ取り外しレバーを矢印の方向にスライドしながら
②フロッピーディスクドライブを引き抜く

その他の周辺機器を接続する

1 I/Oボックスを取り付ける。(→95ページ)

2 各周辺機器を接続する。

シリアルコネクター

シリアルマウスやモデムを接続します。「コントロールパネル」の「ハードウェアの追加」で、必要なドライバーをインストールしてください。

マウスとスマートポインターを併用する場合

マウスまたはドライバーの種類によっては、マウスやスマートポインターが正しく動作しない場合があります。

パラレルコネクター

プリンターなどを接続します。

ディスプレイコネクター

外部ディスプレイなどを接続します。

マウス/外部キーボード端子

IBM PS/2タイプのマウス、外部キーボードを接続します。(→次ページ)

◆マウス端子にマウスを接続するときのお願い

●マウスとスマートポインターを併用する場合

・「マウスのプロパティ」の「ボタン」の「オプション」で「マウス互換モードを使う」にチェックマークを付けてください。（→37ページ）
付けていない場合は、誤動作の原因になります。
また、再起動後は、マウス互換モードの設定は解除されますので、もう一度、設定し直してください。

・スマートポインターのクイックラウンチャー機能およびスクロール機能などは使用できません。

●インテリマウス™を使用する場合

・セットアップユーティリティーの「システム設定」（→109ページ）で「スマートポインター」を[無効]に設定してください。
[有効]に設定していると、インテリマウス特有のホイールスクロール機能などは使用できません。

お知らせ

各周辺機器の設定・準備などについては、各周辺機器に付属の説明書をお読みください。

お願い

各周辺機器の電源を入れてから、本体の電源を入れてください。

RAMモジュールを使う

現在のメモリー容量は、セットアップユーティリティーの「システム構成」（→109ページ）で確認することができます。
工場出荷時には、64MバイトのRAMモジュールが増設されています。（これ以上増設することはできません。）RAMモジュールを交換または取り外す場合は、以下の手順にしたがって操作してください。

お願い

RAMモジュールは、静電気に対して非常に弱い部品で、人間の体内に溜まった静電気により破壊される場合があります。取り付けおよび取り外しのときは、端子などに触れないようにしてください。また、本体内部の部品や端子などにも触れないでください。

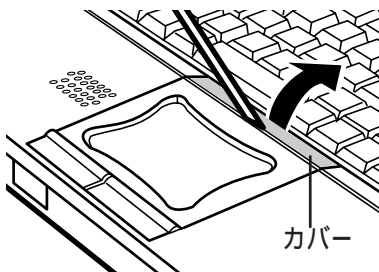
1 **操作を終わる。**(→21ページ「電源を切る」)

お願い

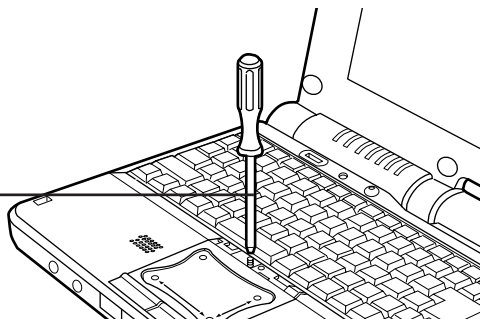
スタンバイや休止状態のときは、機器の取り付け・取り外しを行わないでください。機器が破損したり、正常に動作しないことがあります。

2 **電源が切れたことを確認して、ACアダプターを取り外す。**

3 **バッテリーパックを取り外す。**(→86、87ページ)

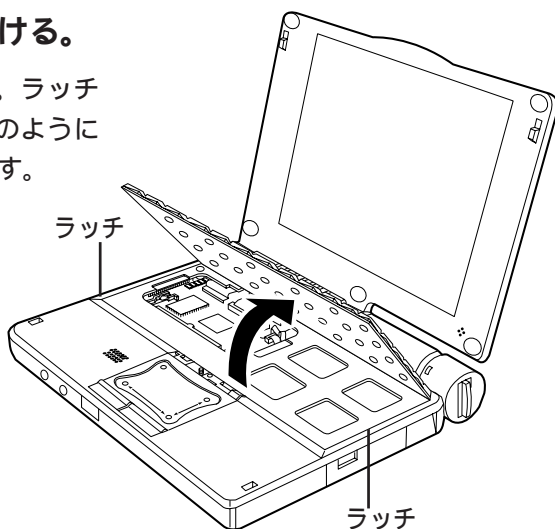
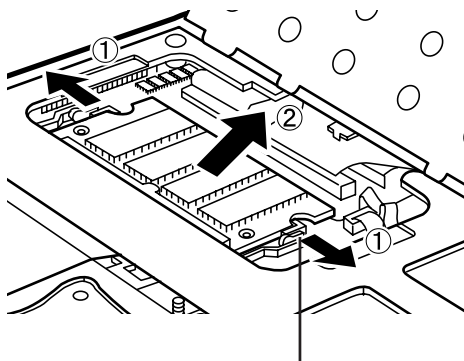
4 **スマートポインター上部のカバーを取り外す。**

先の薄いマイナスドライバーなどを、カバーとスマートポインターとの間に差し込んで、矢印の方向に取り外す。

5 **ネジを取り外す。**

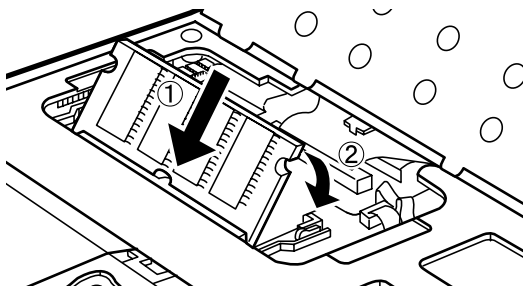
小型のプラスドライバーを使ってネジを取り外す。

6 キーボードパネルを開ける。

ラッチが２か所にあります。ラッチの押さえを外しながら、図のようにキーボードパネルを開けます。

ラッチ

ラッチ

7 ●RAMモジュールを取り外す

フック(左右にあります)がかかり､ロックされていることを確認してください。

●RAMモジュールを取り付ける

お願い

向きと角度に注意して差し込んでください。向きやミゾとの角度を間違うとうまく入りません。

8 **キーボードパネルを閉じてネジを締める。**

キーボードにややたわみを持たせて、右側のラッチをかけてから、左側のラッチをかけます。

9 **カバーを取り付ける。**

10 **バッテリーパックやACアダプターを取り付ける。**

11 **コンピューターの電源を入れて、下記に従って操作する。**

システムが管理しているメモリー容量が変更されたため、「システム起動エラー」（→132ページ）のメッセージが表示されます。

①「セットアップユーティリティーを実行する。」を選んで Enter を押す。

②セットアップユーティリティが起動したら（→107ページ）、「システム構成」を選んで Enter を押す。

③拡張メモリーのサイズを確認して、 Esc を押す。

④設定を保存して、セットアップユーティリティーを終了する。

周辺機器を拡張する

PCカードを使う

本機にはPCカード用スロットが１つあります。
PCカードを使うことにより通信機能を利用したり、SCSI機器などの周辺機器を接続することができます。
カードは厚みによってタイプⅠ（3.3mm）、タイプⅡ（5.0mm）、タイプⅢ（10.5mm）の３つの種類に分けられます。
本機で取り付けることができるのは、タイプⅠまたはタイプⅡのカードです。

お願い

- ご使用の前に、必ず、PCカードの消費電力を確認してください。PCカードスロットの許容電流（許容電流：3.3 Vで500 mA/5 Vで400 mA）を超えて使用すると、故障の原因となりますのでご注意ください。
- 12Vの電源を必要とするPCカードは使用できません。
- PCカードの操作方法は、PCカードに付属の取扱説明書をご覧ください。
- スタンバイや休止状態時には、取り付け・取り外しは行わないでください。

ZVカード(Zoomed Videoポート対応PCカード)使用時のお願い

- ZVカードのドライバーソフトには、本機のPC Cardコントローラー（米国Texas Instruments社製 PCI1251A）に対応していないものもあります。購入時に販売店にご確認ください。
- カメラユニット装着時にはZVカードを使用できません。

CardBusタイプのカードおよびネットワークカード使用時のお願い

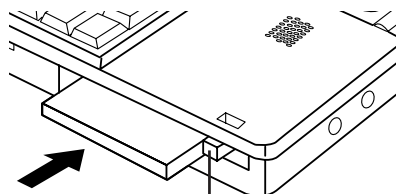
取り外す際は、必ず電源を切ってから操作してください。

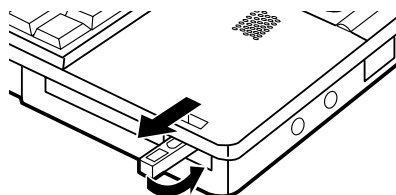
マルチファンクションPCカード使用時のお願い

カメラユニットと市販のマルチファンクションPCカードを同時に装着した場合、正常に動作しない場合があります。その場合は、カメラユニット装着後、電源を入れたあとにマルチファンクションPCカードを装着するか、「セットアップユーティリティー」の「スーパーバイザー設定」で「内蔵モデム」を「無効」に設定してから使用してください。

◆PCカードの取り付け／取り出し

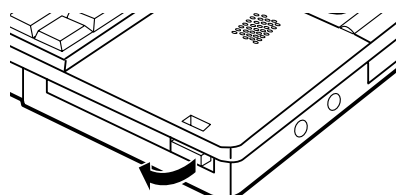
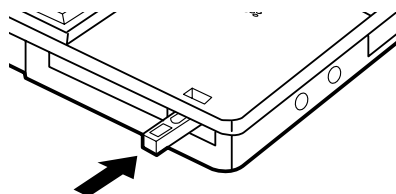
●PCカードを取り付けるとき

①カードをＰＣカードスロットにしっかりと差し込む。

取り出しボタンが飛び出ます。

②取り出しボタンを完全に引き出してから、折り曲げる。

●PCカードを取り出すとき

お願い

カードを取り出す場合は、下記手順に従ってまず、カードの使用を終了してください。
「コントロールパネル」の[PCカード(PCMCIA)]をダブルクリックし、「PCカード（PCMCIA）のプロパティ」画面で取り出すPCカードを選んで、[停止]をクリックする。

①取り出しボタンの折れ曲がり部分を伸ばす。

②取り出しボタンを押す。
カードが少し出てきますので、取り出してください。

1.2Mバイトのフロッピーディスクの読み書き

1.2Mバイトのフロッピーディスクを読み書きする場合は、以下の手順に従ってWindows用の３モードFDドライバーをインストールしてください。

1 [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]を順に選び、[ハードウェアの追加]アイコンをダブルクリックする。
2 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面で[次へ]をクリックし、もう一度[次へ]をクリックする。
3 [いいえ]を選んで[次へ]をクリックする。
4 「ハードウェアの種類」で[フロッピーディスクコントローラ]をクリックして、[次へ]をクリックする。
5 [ディスク使用]をクリックし、「配布ファイルのコピー元」に「c:\util\drivers\3mode」と入力して[OK]をクリックする。
6 「パナソニック３モードフロッピーディスク(Let's noteシリーズ)」が表示されていることを確認し、[次へ]をクリックする。
7 [完了]をクリックする。
8 ファイルのコピー画面で、「ファイルのコピー元」に「c:\util\drivers\3mode」と入力されていることを確認し[OK]をクリックする。
9 「今すぐ再起動しますか？」というメッセージが表示されたら[はい]をクリックする。

休止状態用データ領域の作成

休止状態に入るには、ハードディスク上にメモリーの内容を保存するためのデータ領域を確保しておく必要があります。

必要なエリア容量：メインメモリーの容量 ＋ 約2 M**バイト**

工場出荷時には、約98 M**バイトの領域が確保されています。**
データ領域は、通常は変更する必要はありませんが、ハードディスクのパーティションを変更したときなどには確保し直す必要があります。

休止状態用データ領域は、「ファーストエイドFD**」の**HBUTIL**コマンドを使って作成します。**
ここでは、HBUTIL**コマンドの使用方法について説明します。**

HBUTILコマンドの使用方法

お願い

- HBUTIL.EXE**は「ファーストエイド**FD**」から起動した**MS-DOS**環境で実行してください。**Windows**の「**MS-DOS**プロンプト」などから実行すると、正常に起動しません。**
- **データエリアの作成や削除などを行った後は、すぐに再起動してください。**

「HBUTIL**」には下記のオプションがあります。コマンドとオプションの間は、１スペース空けて入力してください。**

オプション	内容
P ［サイズ］	休止状態用データ領域を作成します。 [サイズ]にはメインメモリーの容量をメガバイト単位で指定します。[サイズ]を省略すると､現在の実装メモリーに従って領域を作成します。 [サイズ]に0を指定すると、すでに設定されているデータ領域を削除することができます。 （例）HBUTIL P 96 メインメモリーが96Mバイト（オンボードメモリー＋64Mバイト RAMモジュール装着時）以下の状態で休止状態に入るために必要な領域を作成します。
I	休止状態用データ領域に関する情報を表示します。
/?	HBUTILコマンドの使用方法などを表示します。

休止状態用データ領域の作成

<HBUTILのエラーメッセージ>

画面表示	原因・対策
まだディスクに領域管理情報が書き込まれていません。	何らかの理由で、領域の管理情報が存在しません。FDISKコマンドで領域の管理情報を初期化する必要があります。 まず、FDISK /MBRコマンドを実行し、続いてもう一度FDISKコマンドを実行して、存在している「基本MS-DOS領域」を削除してください。 再起動の後、もう一度、HBUTILコマンドを実行してください。
十分な容量を持った空き領域が見つかりませんでした。	休止状態用データ領域を作成するためには、十分な容量を持った空き領域が必要になります。 既存の領域を削除するなどして、空き領域を作成してください。

セットアップユーティリティー

ここでは、動作環境を設定するためのユーティリティー（セットアップユーティリティー）について説明します。

起動する

1 Windowsを終了して再起動する。

[スタート]→[Windowsの終了]をクリックし、[再起動する]を選んで[OK]をクリックする。

2 「Press F1 for Setup」が表示されているときに F1 を押す。

お知らせ

- F1 を押すタイミングが遅いとセットアップユーティリティーは起動しません。その場合は、Windowsを終了して再度やり直してください。
- が表示されたらパスワードを入力して Enter を押してください。ユーザーパスワードとスーパーバイザーパスワードの両方を設定している場合で、「スーパーバイザー設定」を変更したいときは、スーパーバイザーパスワードを入力してください。ユーザーパスワードを入力すると、メイン画面に「スーパーバイザー設定」と「デフォルト設定」の項目が表示されません。

すべての設定を標準の状態に戻します。(プラグ＆プレイ設定は行いません。)
工場出荷時には、「デフォルト設定(Non-PnP)」に設定されています。
通常はこちらをご使用ください。

すべての設定を標準の状態に戻します。(プラグ＆プレイ設定を行います。)

セットアップユーティリティー起動時の状態、または「設定を保存する」で保存した状態に戻します。

セットアップユーティリティー

キー操作

下記のキーのうち、画面下側に表示されているものが使用できます。

- F1 :操作方法が画面に表示されます
- ↑ ↓ :カーソルが上下に移動します。項目を選ぶときに使用します。
- → :各項目で設定値を選ぶときに使用します。次の候補を表示します。
- ← :各項目で設定値を選ぶときに使用します。一つ前の候補を表示します。
- F9 :各項目の設定値を変更前の状態に戻します。
- F10 :各項目の設定値を標準の状態に戻します。
- Esc :一つ前の画面に戻ります。セットアップユーティリティーの初期画面で押すと、セットアップユーティリティーを終了します。
- Enter : ↑ ↓ で項目を選んだ後に押すと、各設定項目のサブメニュー画面が表示されます。

終了する

1. [終了]を選び Enter を押す。
2. 設定を保存して終了するか、保存せずに終了するかを選び、Enter を押す。
   コンピューターが再起動し、Windowsが起動します。

お知らせ

ユーザーパスワードを設定している（→112ページ）場合は、Windowsが起動するまでに、パスワードの入力が必要になります。

システム構成

セットアップユーティリティーを起動して（→107ページ）、[システム構成]を選んで Enter を押す。

工場出荷時の画面例(*にはバージョン番号が表示されます。)

システム構成	
システム・メモリー	640 KB
拡張メモリー	95 MB
BIOS**バージョン**	V***L**

現在のメモリー容量やBIOS**のバージョンを確認することができます。**

システム設定

セットアップユーティリティーを起動して（→107ページ）、[システム設定]を選んで Enter を押す。

工場出荷時の画面例

スマートポインターを使用するかどうかを設定します。外部マウスが正常に動作しない場合は、[無効]に設定してください。

起動時にテンキー（キー上に青色で印刷された数字など）による入力を有効にするかどうかを設定します。

セットアップユーティリティー

日付と時刻

セットアップユーティリティーを起動して（→107ページ）、[システム設定]を選んで Enter を押し、[日付と時刻]を選んで Enter を押す。

下記画面は一例です。

日付と時刻	
時刻	[12:30:25　]
日付	[1998-12-12]

コンピューターに設定されている日付と時刻を確認できます。また、設定を変更することができます。

ビデオ設定

セットアップユーティリティーを起動して（→107ページ）、[システム設定]を選んで Enter を押し、[ビデオ設定]を選んで Enter を押す。

工場出荷時の画面例

ビデオ設定	
ディスプレイ	[外部ディスプレイ]
テキスト拡張表示	[無効]
グラフィックス拡張表示	[無効]
外部ディスプレイ検出方法	[ピン検出]

外部ディスプレイにうまく表示できない場合はこの設定を変更してみてください。（→次ページ「お願い」）

日本語DOSモードなど、グラフィックスモードで640×480サイズ以下の画面をLCDいっぱいに拡張して表示したい場合は、[有効]にします。

英語DOSモードなど、テキストモードで640×480サイズ以下の画面をLCDいっぱいに拡張して表示したい場合は、[有効]にします。

起動時、どのディスプレイに表示するかを[内部LCD][外部ディスプレイ][同時表示]の中から選びます。[外部ディスプレイ]や[同時表示]に設定していても、起動時に外部ディスプレイが接続されていない場合は、内部LCD表示となります。（→次ページ「お願い」）

◆表示可能な解像度・色数

	ディスプレイ設定		
	外部モニター	内部LCD	同時表示
640×480　16色	○	○ *1	○ *1
640×480　256色	○	○ *1	○ *1
640×480　65,536色（High Color）	○	○ *1	○ *1
640×480　16,777,216色（True Color）	○	○ *1*2	○ *1*2
800×600　256色	○	○	○
800×600　65,536色（High Color）	○	○	○
800×600　16,777,216色（True Color）	○	○ *2	○ *2
1024×768　256色	○	○ *3	○ *3
1024×768　65,536色（High Color）	○	○ *3	○ *3

*1 画面の中央に小さく表示されます。

*2 内部LCDには、1677万色までの表示が可能です。ディザリング機能を使用して実現しています。

*3 画面全体の一部（800×600の範囲）が表示されます。
カーソルを画面の端に移動すると、画面表示がスクロールします。

お願い

「外部ディスプレイの検出方法」を「検出しない」に設定した場合、実際の接続状況にかかわらず、外部ディスプレイが接続されていると判断されます。このときは、「ディスプレイ」が「外部ディスプレイ」に設定されていて、外部ディスプレイが接続されていなければ、内部LCDへの表示も行われません。Fn ＋ F3 を押して「ディスプレイ」の表示先を切り替えてください。

セットアップユーティリティー

ユーザーパスワード

コンピューターを無断で使用されたくないときは、ユーザーパスワードを設定してください。ユーザーパスワードを知らないと、コンピューターを起動することができません。

お願い

パスワードの入力を3回間違えると
- 電源オン時には、電源が切れます。
- スタンバイ状態からのリジューム時には、スタンバイ状態に戻ります。
- 休止状態からのリジューム時には、休止状態に戻ります。

◆ユーザーパスワードの設定のしかた

1 セットアップユーティリティーを起動する。（→107ページ）

2 [システム設定]を選び Enter を押し、[ユーザーパスワード]を選んで Enter を押す。

ユーザーパスワード	
ユーザーパスワードの状態	無効
新しいユーザーパスワードを２回入力してください。	
ユーザーパスワード入力	[　　　]
ユーザーパスワード再入力	[　　　]
ユーザーパスワード登録（変更）	
ユーザーパスワード削除	

3 ●パスワードを新規に登録する・変更する場合

①[ユーザーパスワード入力]の[　　　]欄にパスワードを入力する。
②[ユーザーパスワード再入力]の[　　　]欄に手順①で入力したパスワードを入力する。
③[ユーザーパスワード登録（変更）]を選び Enter を押す。

必要なときに

お願い

・入力したパスワードは画面に表示されません。
・入力可能な文字は、半角の英数記号（\、\を除く）で、最大７文字までです。大文字、小文字の区別はありません。
・Shift や Ctrl などの特殊キーとあわせて入力することはできません。
・テンキーによる入力はできません。数字は、キーボード上段の数字キーを使って入力してください。
・パスワードは忘れないようにしてください。忘れたパスワードを解除する方法はありません。

●登録済みのパスワードを無効にする場合

[ユーザーパスワード削除]を選び Enter を押す。

4 確認して Enter を押し、 Esc でパスワードの設定を終了する。

お願い

無断でパスワードを変更されることを避けるために
・セットアップユーティリティーを起動したままコンピューターから離れないでください。
・「ユーザーパスワード保護」を「有効」に設定してください。（→116ページ）

省電力設定

セットアップユーティリティーを起動して（→107ページ）、[省電力設定]を選んで Enter を押す。
「コントロールパネル」の「電源の管理」でも省電力の設定を行うことができます。（→76ページ）

工場出荷時の画面例

省電力設定		
・バッテリーモード 省電力設定		― 次ページ
・ACモード 省電力設定		― 次ページ
動作設定：		― 115ページ
パワースイッチ	[スタンバイ]	
パネルスイッチ	[LCDオフ]	
内蔵モデムリングリジューム	[無効]	
自動的に休止状態に移行する	[無効]	

◆バッテリーモード省電力設定

「省電力設定」画面で[バッテリーモード省電力設定]を選んで Enter を押す。

工場出荷時の画面例

バッテリーモード　省電力設定	
省電力モード	[省電力　　　]
CPUスピード	２５%
LCDバックライト	暗

＜省電力モード＞
バッテリーで使用するときの省電力モードを設定します。
「標準」「省電力」「ユーザー設定」より選択します。「標準」を選択すると処理速度重視の設定に、「省電力」を選択すると消費電力重視の設定になります。「ユーザー設定」を選択すると、各項目を下表の中から設定できます。これらの設定は、Fn ＋ F8 で一時的に変更することができますが、起動時にはここで設定した内容で動作します。

	標準	省電力	ユーザー設定
CPUスピード	100%	25%	100%、75%、50%、25%、12.5%
LCDバックライト	明	暗	明、中、暗、省電力*1

*1「省電力」に設定すると、「暗」よりももう一段階暗くなります。

CPUスピード
CPUの動作速度を設定します。
LCDバックライト
LCDバックライトの輝度を設定します。暗くするほど消費電力は小さくなります。

◆ACモード省電力設定

「省電力設定」画面で[ACモード省電力設定]を選んで Enter を押す。

工場出荷時の画面例

ACモード　省電力設定	
省電力モード	[標準　　　]
CPUスピード	１００%
LCDバックライト	明

＜省電力モード＞
ACアダプター接続時の省電力モードを設定します。
各項目の設定については、「バッテリーモード省電力設定」と同じです。
上記をご覧ください。

◆動作設定

＜パワースイッチ＞
電源オン時に、コンピューターの電源ボタンを押したときの動作を設定します。「パワーオフ」「スタンバイ」「休止状態」から選択します。

＜パネルスイッチ＞
LCDパネルを閉じたときの動作を「LCDオフ」「スタンバイ」から選択します。「スタンバイ」を選択してLCDパネルを閉じると、スタンバイ状態になって電源表示ランプが緑色点滅します。LCDパネルを開くとリジュームします。電源ボタンでリジュームさせることはできません。Windowsは独自で省電力を制御する機能を持っているため、スタンバイできない場合もあります。

お願い

「スタンバイ」に設定している場合、電源表示ランプが緑色点滅するまで（完全にスタンバイ状態に入るまで）はLCDパネルを開けないでください。
途中でLCDパネルを開けると、スタンバイ状態に入ったままリジュームできなくなる場合があります。その場合は、再度LCDパネルを閉じた後、数秒たってからLCDパネルを開けてください。

＜内蔵モデムリングリジューム＞
「有効」に設定しておくとスタンバイ中に内蔵モデムの回線に電話がかかると、自動的にリジュームします。
「パネルスイッチ」が「スタンバイ」に設定されていて、LCDパネルが閉じられているときは、この機能は働きません。

＜自動的に休止状態に移行する＞
スタンバイ状態になってから、自動的に休止状態になるまでの時間を設定します。「無効」「５分」「10分」「30分」「60分」「120分」から選択します。この機能はスタンバイ状態になってから動作します。

スーパーバイザー設定

セットアップユーティリティーを起動して（→107ページ）、[スーパーバイザー設定]を選んで Enter を押す。
スーパーバイザーパスワードが設定されている場合は、パスワードの入力画面が表示されます。スーパーバイザーパスワードを入力してください。

工場出荷時の画面例

スーパーバイザー設定	
パラレルポート	[Port 378, IRQ 7]
動作モード	[双方向]
DMA	オフ
内蔵モデム	[有効]
赤外線ポート	[Port 2F8, IRQ 3]
ASKモード	[無効]
DMA	[DMA 0]
シリアルポート	[Port 3F8, IRQ 4]
サウンドポート	[有効]
Sound Blaster互換I/O	[220h]
WSS CODEC I/O	[530h]
IRQ	[IRQ 5]
DMA-A	[DMA 7]
DMA-B (Sound Blaster)	[DMA 1]
起動ドライブ	[FDD→HDD]
・スーパーバイザーパスワード	
ユーザーパスワード保護	[無効]
PCI クロック制御*	[有効]

118ページ

（*の項目はカーソルを下に移動して、画面をスクロールすると表示されます。）

[サウンドポート]
サウンドチップ動作を設定します。[無効]を選ぶと、サウンドに関する設定はすべて無効になります。

[サウンドポート：Sound Blaster互換I/O]
Sound Blaster互換モードのI/Oアドレスを設定します。

[サウンドポート：WSS CODEC I/O]
WSS CODECのI/Oアドレスを設定します。

[サウンドポート：IRQ]
サウンドチップのIRQを設定します。
パラレルポートと同じIRQは選ぶことができません。

[サウンドポート：DMA-A]［サウンドポート：DMA-B]
サウンドチップのDMAを設定します。お互いに、またパラレルポートや赤外線ポートのDMAと重ならないように設定してください。

必要なときに

サウンドポートのIRQと重なった場合、自動的にサウンドポートIRQを別のIRQに変更します。

[EPP]および[ECP]モードは、パラレルポート設定が[278]か[378]のときのみ選択することができます。

[パラレルポートの動作モード]を[ECP]に設定した場合のDMAチャネルを設定します。
[サウンドポート：DMA-A]や[サウンドポート：DMA-B]や赤外線ポートのDMAと重ならないように設定してください。

内蔵モデムを使用する場合は、[有効]に設定してください。

[赤外線ポート]
　シリアルポートのアドレスと重なった場合は、自動的にシリアルポートのアドレスを別のアドレスに変更します。
[赤外線ポート：ASKモード]
　[有効]に設定するとASKモードになります。
　[無効]に設定するとIrDAまたはFIRモードになります。
[赤外線ポート：DMA]
　サウンドポートやパラレルポートのDMAと重ならないように設定してください。

赤外線ポートのアドレスと重なった場合、自動的に赤外線ポートのアドレスを別のアドレスに変更します。

システムを起動するドライブを設定します。

ユーザーパスワードを無断で設定されたくない場合は、「有効」に設定します。

PCIクロック制御を行うかどうかを設定します。
CardBusカードが正常に動作しない場合は、「無効」に設定してみてください。

スーパーバイザーパスワード

スーパーバイザー設定の内容を無断で変更されたくないときは、スーパーバイザーパスワードを設定してください。スーパーバイザーパスワードを知らないとスーパーバイザー設定を変更できません。

◆スーパーバイザーパスワードの設定のしかた

1 セットアップユーティリティーを起動する。（→107ページ）

2 [スーパーバイザー設定]を選び Enter を押し、[スーパーバイザーパスワード]を選んで Enter を押す。

スーパーバイザーパスワード	
スーパーバイザーパスワードの状態	無効
新しいスーパーバイザーパスワードを２回入力してください。	
スーパーバイザーパスワード入力	[ ]
スーパーバイザーパスワード再入力	[ ]
スーパーバイザーパスワード登録（変更）	
スーパーバイザーパスワード削除	

3 ●パスワードを新規に登録する・変更する場合

①[スーパーバイザーパスワード入力]の[ ]欄にパスワードを入力する。
②[スーパーバイザーパスワード再入力]の[ ]欄に手順①で入力したパスワードを入力する。
③[スーパーバイザーパスワード登録（変更）]を選び Enter を押す。

●登録済みのパスワードを無効にする場合

[スーパーバイザーパスワード削除]を選び Enter を押す。

お願い

- 入力したパスワードは画面に表示されません。
- 入力可能な文字は、半角の英数記号（\、\を除く）で、最大７文字までです。大文字、小文字の区別はありません。
- Shift や Ctrl などの特殊キーとあわせて入力することはできません。
- テンキーによる入力はできません。数字は、キーボード上段の数字キーを使って入力してください。
- パスワードは忘れないようにしてください。忘れたパスワードを解除する方法はありません。
- ユーザーパスワードと同じパスワードは設定できません。

4 確認して Enter を押し、 Esc でパスワードの設定を終了する。

お知らせ

ユーザーパスワードを変更されたくないときは、「ユーザーパスワード保護」を「有効」に設定してください。

必要なときに

オンラインマニュアルの見かた

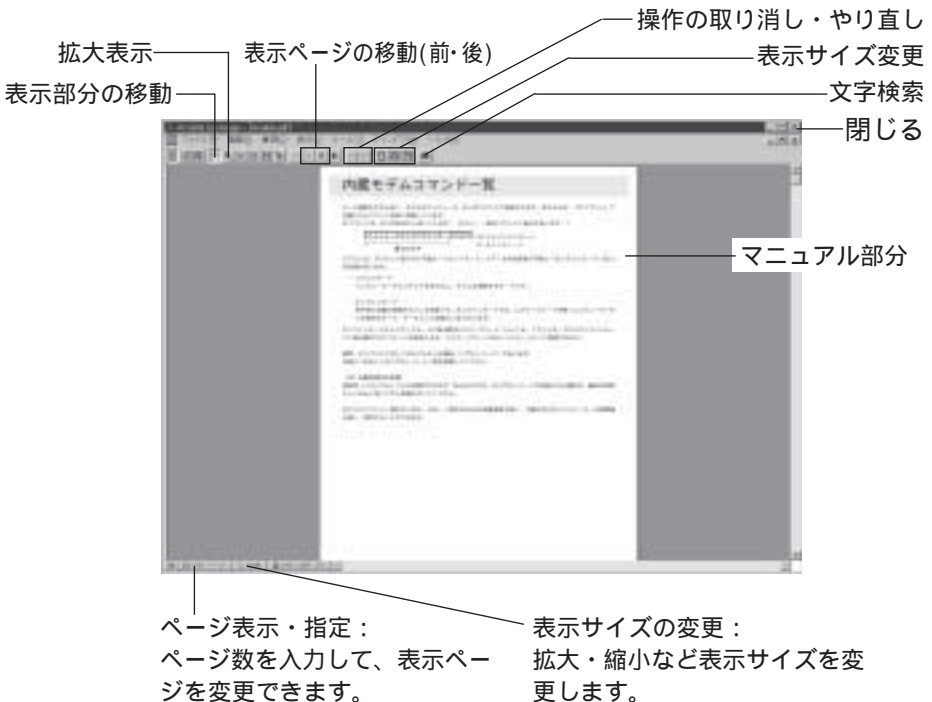
内蔵モデムのコマンド一覧は、画面で見ることができるオンラインマニュアルとして用意されています。プリンターが接続されていれば、印刷することもできます。ここでは、オンラインマニュアルの見かたについて説明します。

お願い

オンラインマニュアルを見るには、Acrobat® Reader**をインストールしておく必要があります。（→19ページ）**

◆リファレンスマニュアルを起動する

1 [スタート]→[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2 「c:\panaapp\modem.pdf」と入力して[OK]をクリックする。

お願い

Acrobat® Reader**の下部がタスクバーにかくれてみえないときは、ウィンドウを最大表示にしてください。**

必要なときに

キーボードの操作

特殊キー

Esc ：アプリケーションソフトによって機能が異なります。

ScrLK ：アプリケーションソフトによって機能が異なります。

NumLK ： Shift を押しながら押して、テンキーを有効にするかどうかを切り替えます。有効にするとテンキーを使って数字を入力できます。

NumLKインジケーター点灯時：テンキー有効
この状態で Fn を押しながら入力すると、テンキー無効になります。
NumLKインジケーター消灯時：テンキー無効
この状態で Fn を押しながら入力すると、カーソルや画面の移動キーとして使用できます。

Pause/Break ：プログラムの実行を中断します。続行する場合は、任意のキーを押してください。 Ctrl を押しながら押した場合は、プログラムの実行を中止します。

CapsLock/英数 ：英数字入力になります。 Shift を押しながら押した場合は、CapsLock状態に入ります。もう一度押すと、解除されます。CapsLock状態では、アルファベットキーを押すと、大文字入力になり、 Shift を押しながらアルファベットキーを押すと小文字入力になります。

Enter ：コンピューターに対して、コマンドやデータが入力されます。

Shift ：通常、このキーを押しながらアルファベットキーを押すと、大文字入力になります。また、このキーを押しながら数字キーか特殊キーを押すと、キートップの上部に印字されている記号が入力されます。

Ctrl ：このキーを押しながら他のキーを押すと、特殊機能が有効になります。このキーを押しながら他の特殊キーを押した場合、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

Alt ：このキーを押しながら他のキーを押すと、特殊機能が有効になります。このキーを押しながら他の特殊キーを押した場合、アプリケーションソフトによって機能が異なります。

キーボードの操作

キーコンビネーション

Fn を押しながら下記のキーを押すことによって、特殊機能が有効になります。この操作を「ホットキー」と呼びます。

Fn + F2 ：LCDバックライトの輝度を切り換えます。キーを押すごとに（暗→中→明→省電力）の順に輝度が切り換わります。
輝度が最大（明）のときには､下記のアイコンが表示されます。

Fn + F3 ：画面表示の表示先を切り換えます。キーを押すごとに（内部LCD→同時表示→外部ディスプレイ）の順に表示先が切り換わります。

- セットアップユーティリティーのビデオ設定で「外部ディスプレイ検出方法」を「ピン検出」または「アナログ検出」に設定していて、外部ディスプレイが接続されていない場合は切り換わりません。

Fn + F4 ：内蔵スピーカーから出る音を消します。再度押すと元に戻ります。また、Fn + F5 あるいは Fn + F6 が押されると、自動的にスピーカーオンの状態になります。状態は下図のように画面にアイコン表示されます。

スピーカーオフ

スピーカーオン

Fn + F5 ：内蔵スピーカーボリュームを下げます。

Fn + F6 ：内蔵スピーカーボリュームを上げます。音量は下図のように画面にアイコン表示されます。

音量小

音量大

必要なときに

Fn + F7 ：本機を休止状態にします。

Fn + F8 ：省電力設定モードを切り替えます。キーを押すごとに、（省電力モード→ユーザー設定モード→標準モード）の順に省電力設定モードを切り換えます。状態は、下図のように画面にアイコン表示されます。

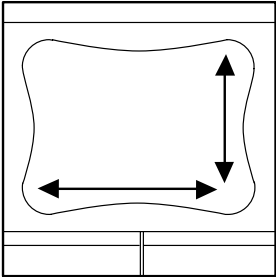
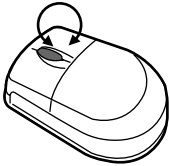
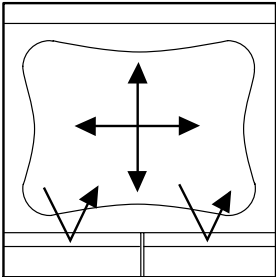
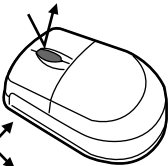
省電力
モード

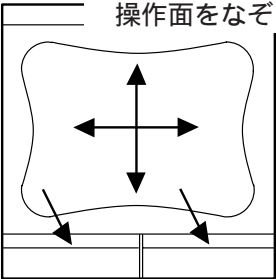
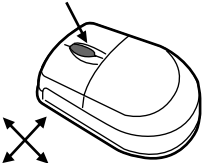
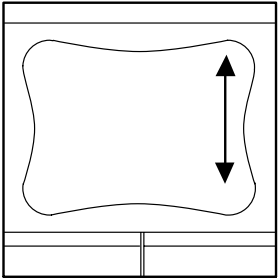
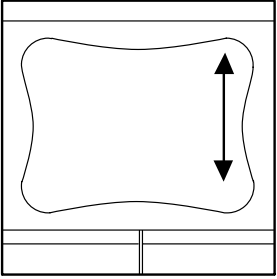
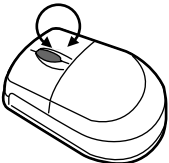
ユーザー
設定モード

標準
モード

Fn + F9 ：バッテリーの残量が、画面にアイコン表示されます。
詳しくは「画面に表示されるアイコンで確認する」
(→90ページ)

Fn + F10 ：Windows 98起動時に押した場合は、本機をスタンバイ状態にします。
MS-DOSモードで起動時に押すと、ハードディスクドライブモーターとディスプレイの電源のみが切れます。

お願い

- システム起動中、あるいはスタンバイや休止処理を実行中は一部のホットキーは使用できません。
- 高速なシリアル通信中などにホットキーを使用すると、通信エラーになることがあります。通信中はホットキーを使用しないでください。
- 音声再生、録音中にホットキーを使用すると、音がみだれることがあります。
- Fn + F2 、Fn + F3 、Fn + F8 で変更した設定は一時的なものです。再起動後はセットアップユーティリティーで設定されている状態に戻ります。

スマートポインターとインテリマウス™

ここでは、スマートポインターとインテリマウスのスクロール操作を比較して説明します。
各機能の動作はアプリケーションによって異なることがあります。
*下記文中の「原点」とは、ボタンやホイールを押した位置のことを言います。

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
スクロール 文書を縦方向または横方向にスクロールします。		ホイールを回転させる
オートスクロール 文書を自動的にスクロールします。 スマートポインターから手を離しても、カーソルの形状が示す方向にスクロールします。 長い文書を読むときやデータを拾い読みするときなどに便利です。 また、スクロールの速度は、カーソルを原点* から遠くへ移動させるほど速くなります。	②スクロールしたい方向に操作面をなぞって手を離す ①２つのボタンを同時にクリックした後 ・オートスクロール機能を解除するには操作面を1回タップしてください。	①ホイールをクリックした後 ②マウスを動かす

必要なときに

機能	デバイスの操作	
	スマートポインター	インテリマウス
パン 文書をさまざまな方向にスクロールします。ボタンまたはホイールを押している間、スクロールが続きます。スクロールの速度はカーソルを原点* から遠くへ移動させるほど速くなります。	②操作面をなぞる ①2 つのボタンを押しながら	①ホイールを押しながら ②マウスを動かす
ズーム 文書の表示を拡大/縮小します。	Ctrl +	Ctrl +
データズーム 文書を表示したり隠したりなど、エクスプローラーの操作を実行します。	Shift +	Shift +

必要なときに

困ったときに開くページ

本機を動かそうとして、思ったとおりに動かないことがあります。おかしいな？と思ったら、このページを読んでください。また、ソフトウェアによる原因も考えられますので、Windowsやアプリケーションソフトなど各ソフトウェアのマニュアルも参照してください。どうしても原因がわからないときは、お買い上げになった販売店または当社ご相談窓口にご相談ください。

起動時の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作できない	●ACアダプターは、本体の電源端子および電源コンセントに差し込まれていますか？ ●十分充電されたバッテリーパックが正しく入っていますか？ ●リセットスイッチを押して、本機を再起動させたあと正常に動作しませんか？ ●本体のACアダプターおよびバッテリーパックをすべて外してから再度装着し、再起動させたあと正常に動作しませんか？ ●HDD内容が破壊されていませんか？ セットアップユーティリティーで「起動ドライブ」を「FDD→HDD」に設定した後、フロッピーディスクドライブに「Windows 98起動ディスク」*を挿入して再起動し、HDD内容を確認してください。*「アプリケーションの追加と削除」の「起動ディスク」で作成できます。
画面に何も表示されない	●省電力機能によって、自動的にディスプレイが消えることがあります。いずれかのキーを押すと、元に戻ります。 ● Fn + F3 を押してディスプレイの表示先を切り替えてみてください。
画面上の日付/時刻の表示が違っている	●コントロールパネルを使って、またはセットアップユーティリティーを起動して正しい日付/時刻を設定してください。 ●日付/時刻の情報を保持しているクロックバッテリー(リチウム電池)が切れかかっているおそれがあります。 お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
パスワードを忘れた	●お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

操作中の問題

こんなときは	ここをお調べください
操作中に本機が動かなくなった	●バッテリーパックを使って操作していたときは、バッテリーが切れた可能性があります。ACアダプターを接続してください。 ●使っていたアプリケーションソフト上の問題でシステムが止まってしまった可能性があります。そのソフトウェアの使用を中止し、リセットスイッチを押して本機を再起動してください。
バッテリー状態表示ランプが赤く点灯している または キー操作による残量表示で０％と表示された	●バッテリー残量がありません。ACアダプターを接続してください。 ●ACアダプターが正しく接続されていない可能性があります。正しく接続し直してください。 ●それでも直らない場合や、バッテリー残量はあるはずなのに赤色点灯や０％表示が続く場合は、「バッテリー容量を正確に表示させるために」（→91ページ）に従って操作をしてください。
バッテリー状態表示ランプが赤く点滅している	●バッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。正しく装着し直してください。 ●それでも赤く点滅するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
使用中に「ピー・ピー」と音が鳴り始めた	●バッテリー残量がわずかです。ACアダプターを接続してください。
充電中にバッテリー状態表示ランプが消灯している	●ACアダプターとバッテリーパックが正しく装着されていない可能性があります。ACアダプターとバッテリーパックを取り外し、再度正しく装着し直してください。 それでも消灯するようであれば、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。
キー操作による残量表示では100%なのにバッテリー状態表示ランプのオレンジ色点灯が長く続く	●バッテリー状態表示ランプが緑色になるまで、充電を続けてください。

困ったときに開くページ

ディスプレイ画面の問題

こんなときは	ここをお調べください
画面が消えた	●省電力機能によって、ディスプレイの電源がオフになることがあります。その場合、いずれかのキーを押すと元に戻ります。
残像が残る	●イメージが画面に残ると、画面に焼きつき、残像となることがあります。これは、異常ではありません。別の画面が現れてしばらくたつと、残像は消えます。
画面に緑、赤、青のドットが残る	●これらのドットが残るのは、カラー液晶ディスプレイの特質です。故障ではありません。

ドライブの問題

こんなときは	ここをお調べください
フロッピーディスクドライブ（外部FDD）にアクセスしない	●フロッピーディスクドライブが正しく接続されていますか？ ●フロッピーディスクは正しくセットされていますか？ ●フロッピーディスクは初期化されていますか？ ●ライトプロテクトタブが書き込み禁止の状態になっていませんか？
フロッピーディスクが初期化できない	●デスクトップ上の「マイコンピュータ」から[3.5インチFD(A:)]を選んで[ファイル]→[フォーマット]をクリックした後、ディスクの容量やフォーマットの種類を確認してフォーマットしてください。 ●1.2 Mバイトのフロッピーディスクをフォーマットする場合 1. コンピューターの電源を入れる。 2. すぐに Ctrl を押す。 (ユーザーパスワードを設定している場合は、パスワード入力後、約1秒以内に Ctrl を押してください。) 3. メニュー画面で「Safe mode command prompt only」を選ぶ。 4. 全角／半角 を押す。 5. 次のように入力する。cd \windows\command Enter fd3mode Enter format3 a: Enter 6. 以降、画面のメッセージに従って操作する。
ハードディスクドライブにアクセスできない	●原因がわからない場合は、お買い上げの販売店または「ご相談窓口」にご相談ください。

困ったときは

周辺機器の問題

こんなときは	ここをお調べください
割り込み要求(IRQ)、I/Oポートアドレス等、アドレスマップがわからない	●「コントロールパネル」の[システム]アイコンをダブルクリックし、[デバイスマネージャ]をクリックし、[コンピュータ]を選んで[プロパティ]をクリックする。
プリンターが動かない	●ケーブルが正しく接続されていますか？ ●プリンターの電源は入っていますか？ ●セットアップユーティリティーで「パラレルポート」を「378」「278」または「3BC」に設定してください。 ●適切なプリンタードライバーが選択されていますか？
マウスが使えない	●マウスケーブルが正しく接続されていますか？ ●マウスがシリアルコネクターに接続されている場合はドライバーをインストールする必要があります。（→97ページ）それでも正しく動作しない場合は[セットアップユーティリティーで「スマートポインター」を「無効」に設定してください。その後、「シリアルポート」を「3F8(IRQ4)」か「2F8(IRQ3)」に設定してください。 ●マウス/外部キーボード端子に接続している場合、「マウスのプロパティ」の「ボタン」の「オプション」で「マウス互換モードを使う」にチェックマークを付けていますか？（→37、98ページ） ●インテリマウス™をマウス/外部キーボード端子に接続している場合、セットアップユーティリティーで「スマートポインター」を「無効」に設定してください。（→98ページ）
スマートポインターが使えない	●正しいデバイスドライバーのプログラムがロードされ、動いていますか？ ●セットアップユーティリティーの「スマートポインター」の設定が「有効」になっていますか？
PCカードが使えない	●カードは正しくセットされていますか？ ●当社指定以外のカードを使用していませんか？ ●適切なドライバープログラムがインストールされていますか？

周辺機器の問題

こんなときは	ここをお調べください
PCカードが使えない	●PCカードが使用しているI/Oアドレス、IRQナンバー、チャンネルを確認し、設定し直してください。 ＜I/Oアドレス＞以下のアドレスをさけて設定し直してください。 I/O:0000H-00FFH (システムボード) 1F0H-1F7H (ハードディスクドライブ) 220H-22FH (サウンド)*4 240H-24FH (サウンド)*4 260H-26FH (サウンド)*4 278H-27FH (パラレルポート)*2 280H-28FH (サウンド)*4 2F8H-2FFH (赤外線通信ポート)*1 330H-331H (サウンド) 370H-371H (サウンド) 378H-37FH (パラレルポート)*2 388H-38BH (サウンド) 3B0H-3BBH (VGA) 3BCH-3BFH (パラレルポート)*2 3C0H-3DFH (VGA) 3E0H-3E1H (PCカードコントローラー) 3F0H-3F7H (フロッピーディスクコントローラー) 3F8H-3FFH (シリアルポート)*3 530H-538H (サウンド)*5 600H-608H (サウンド)*5 E80H-E88H (サウンド)*5 F40H-F48H (サウンド)*5 *1 赤外線通信(IrDA)ポートアドレスは、セットアップユーティリティーで2F8H、3F8H、"オフ"、"プラグ＆プレイ"のいずれかに設定できます。 *2 パラレルポートアドレスは、セットアップユーティリティーで278H、378H、3BCH、"オフ"、"プラグ＆プレイ"のいずれかに設定できます。 *3 シリアルポートアドレスは、セットアップユーティリティーで3F8H、2F8H、"オフ"、"プラグ＆プレイ"のいずれかに設定できます。 *4 サウンドポートアドレスは、セットアップユーティリティーで220H、240H、260H、280Hのいずれかに設定できます。 *5 サウンドポートアドレスは、セットアップユーティリティーで530H、600H、E80H、F40Hのいずれかに設定できます。 ＜IRQナンバー＞以下のいずれかに設定してください。 IRQ: 3*1, 4*2, 7*3, 9, 10, 11, 15 *1 IRQ3は通常、COM2(赤外線通信ポート)が使用しています。 *2 IRQ4は通常、COM1(シリアルポート)が使用しています。 *3 IRQ7は通常、プリンターに使用されます。 PCカードで、IRQ3またはIRQ4を使用するときは、セットアップユーティリティーでシリアルポートまたは赤外線通信(IrDA)ポートを「オフ」にしてください。

通信時の問題

こんなときは	ここをお調べください
接続できない	●電話回線とモデムは正しく接続されていますか？（→53ページ） ●電話回線の種類は正しく設定されていますか？（→54ページ） ●通信環境は正しく設定されていますか？（→57～63ページ）
ユーザーボタンでメールの自動送受信ができない	●「接続できない」場合の対処方法に従って、確認してください。 ●「USERボタン連携」で「メールの自動送受信」が設定されていますか？（→49、50ページ） ●タスクバーにクイックラウンチャーアイコン は表示されていますか？（→29ページ） ●タスクバーのクイックラウンチャーアイコンのプルダウンメニューで、「USERボタンを使わない」にチェックマークを付けていませんか？（→48ページ）
メールを自動送受信中、接続が切断される	●回線を自動的に切断するように設定していませんか？（→67ページ）
メールの受信はできるが送信ができない	以下の手順で「TCP/IP」の入れ替えを行ってください。 ①「コントロールパネル」の[ネットワーク]をダブルクリックする。 ②「ネットワークの設定」画面で「TCP/IP」を選んで[削除]をクリックする。 ③「ネットワークの設定」画面で[追加]をクリックする。 ④「プロトコル」を選び[追加]をクリックする。 ⑤「Microsoft」の「TCP/IP」を選んで[OK]をクリックする。 ⑥「ネットワークの設定」画面で[OK]をクリックする。 ⑦再起動を促すメッセージが表示されたら[はい]をクリックする。

エラーコード一覧

ハードウェアの不良が発生した場合は、起動時に「システム起動エラー」の画面と共に以下のようなエラーコードが表示されます。
画面に表示されるメニューにしたがって操作してください。

セットアップ実行：セットアップユーティリティー（→107ページ）が起動します。
このとき「デフォルト設定(Non-PnP)」を選んだ後、再度セット
ト
アップユーティリティーを起動し直し、適切な設定を行ってく
だ
さい。

終了：このエラーを無視し、そのままOSを起動します

エラーコード	意味
062 Boot failure -- default configuration used	自己診断プログラム(POST)が中断され､システムボードにデフォルト設定が行われました。
101 システム・ボード・エラー	割り込みコントローラーのエラーです。
102 システム・ボード・エラー	タイマーのエラーです。
106 システム・ボード・エラー	フロッピーディスクコントローラーのエラーです。
151 システム・ボード・エラー	リアルタイムクロックのエラーです。
161 CMOS電池が壊れました	CMOSバッテリーのエラーです。
162 構成エラー	CMOSの設定が誤っています。
162 構成変更がありました	システム設定が変更されました。
163 日付と時刻の設定が違います	日付・時刻が設定されていません。
164 メモリー・サイズ・エラー	メモリー・サイズが変更されたと判断されました。
201 メモリー・サイズ・エラー	メモリーのデータエラーです。
1780 ハードディスク・エラー	ハードディスクのエラーです。
その他のエラーメッセージ	自己診断プログラムがエラーを発見しました。

再インストールのしかた

ハードディスクの内容が壊れてしまった場合などには、もう一度ハードディスクを工場出荷状態に戻すことができます。

再インストールの準備

お願い

必ず、ACアダプターを装着してください。ACアダプターを装着していないと、再インストールは行えません。

1 **下記のものを準備する。**

●あらかじめ作成しておいたバックアップディスク（→22ページ）
●プロダクトリカバリーCD-ROM（付属）
●フロッピーディスクドライブ（付属）
●CD-ROMドライブ（別売）
・「再インストールのための準備」（→23〜25ページ）を行ったCD-ROMドライブを準備してください。
・ハードディスクのパーティションを変更したり、フォーマットを行う前に、「CD-ROMセットアップ起動ディスク」で起動して、CD-ROMドライブが認識できるか確認してください。→24ページ
（確認の際には手順③と④は必要ありません。手順②の後、手順⑤に進んでください。）

2 **ハードディスクを圧縮している場合は、Windowsを起動して解除する。**

お知らせ

Windowsを起動できない場合などで圧縮を解除できないときは、次ページの手順*2*で「1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。」を選んでください。

3 **Windowsを終了して操作を終わり**（→21ページ「電源を切る」）**、電源が切れたことを確認する。**

4 **フロッピーディスクドライブとCD-ROMドライブを取り付け、CD-ROMドライブの電源を入れる。**

再インストールのしかた

再インストールする

1 ファーストエイド FDをフロッピーディスクドライブにセットし、プロダクトリカバリーCD-ROMをCD-ROMドライブにセットし、コンピューターの電源を入れる。

2 「Press F1 for Setup」が表示されているときに、F1 を押し、セットアップユーティリティーを起動する。（→107ページ）

3 「デフォルト設定(Non-PnP)」を選んで、Enter を押す。
確認メッセージが表示されたら、再度 Enter を押し、設定を保存してセットアップユーティリティーを終了する。

4 ●パーティション設定も含めて、ハードディスクの内容をすべて工場出荷の状態にする場合
[1.ハードディスク全体を工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。
●パーティション設定を行わず、ハードディスク(Cドライブ)を工場出荷の状態にする場合
[2.Cドライブの内容のみを工場出荷状態に戻す。]を選ぶ。

5 確認のメッセージが表示されたら Y を押す。
メッセージに従って操作してください。
ハードディスクのフォーマットが始まります。

6 フォーマット終了後、任意のキーを押す。
コンピューターの電源が自動的に切れます。

7 CD-ROMセットアップ起動ディスクをセットして、電源を入れる。

8 確認のメッセージが表示されたら Y を押し、プロダクトリカバリーCD-ROMがセットされていることを確認して、任意のキーを押す。
再インストールが始まります。(約１時間程度かかります。)

9 **再インストール終了の画面になったら、任意のキーを押す。**

コンピューターの電源が自動的に切れます。

お願い

バックアップディスク作成時に「アップデートFD」を作成した場合は（→22ページ）、アップデートFDをフロッピーディスクドライブにセットし、コンピューターの電源を入れてください。メッセージに従って操作し、アップデートが終わったら、Alt ＋ Ctrl ＋ Del を押してコンピューターを再起動してください。操作については アップデートFD内のREADME.TXTも参照してください。

10 **電源を入れ、Windows 98のセットアップを行い、Acrobat® Reader 3.0Jをインストールする。（→18、19ページ）**

◆Windows 98関連ファイルのインストール

工場出荷時にはインストールされていない、Windows 98関連のファイルをインストールしたい場合は、下記をご覧ください。
インストールするには、ハードディスクのCドライブに約200 Mバイトの空き容量が必要です。

1 **CD-ROMドライブを接続して、コンピューターの電源を入れる。**

2 **[スタート]→[プログラム]→[MS-DOSプロンプト]をクリックする。**

3 **プロダクトリカバリーCD-ROMをセットして、「C:\Windows>」に続けて以下のように入力する。**

L:\JA\ADDFILE L:

（「L:」はドライブ文字です。コンピューターの使用状況に合わせて変更してください。）

「c:\util」ディレクトリーにファイルがインストールされます。

お知らせ

CF-C33J8シリーズ用の各種ドライバーやPanasonic製のソフトウェアなどはプロダクトリカバリーCD-ROMの「\JA\ETC」フォルダに入っています。

ソフトウェア使用許諾書

この製品にインストールされているソフトウェアについては、「ソフトウェア使用許諾書」の内容を承諾していただくことがご使用の条件になっています。

第1条　権利
お客様は、本ソフトウェア（コンピューター本体に内蔵のハードディスク、付属フロッピーディスク、マニュアルなどに記録または記載された情報のことをいいます）の使用権を得ることはできますが、著作権がお客様に移転するものではありません。

第2条　第三者の使用
お客様は、有償あるいは無償を問わず、本ソフトウェアおよびそのコピーしたものを第三者に譲渡あるいは使用させることはできません。

第3条　コピーの制限
本ソフトウェアのコピーは、保管（バックアップ）の目的のためだけに限定されます。

第4条　使用コンピューター
本ソフトウェアは、コンピューター1台に対しての使用とし、複数台のコンピューターで使用することはできません。

第5条　解析、変更または改造
本ソフトウェアの解析、変更または改造を行わないでください。お客様の解析、変更または改造により、何らかの欠陥が生じたとしても、弊社では一切の保証をいたしません。また解析、変更または改造の結果、万一お客様に損害が生じたとしても弊社および販売店等は責任を負いません。

第6条　アフターサービス
お客様が使用中、本ソフトウェアに不具合が発生した場合、弊社窓口まで電話または文書でお問い合わせください。お問い合わせの本ソフトウェアの不具合に関して、弊社が知り得た内容の誤り（バグ）や使用方法の改良など必要な情報をお知らせいたします。

第7条　免責
本ソフトウェアに関する弊社の責任は、上記第6条のみとさせていただきます。本ソフトウェアのご使用にあたり生じたお客様の損害および第三者からのお客様に対する請求については、弊社および販売店等はその責任を負いません。また製品に付属されている「保証書」はコンピューター本体（ハードウェア）の保証に限定したものです。

第8条　その他
上記第6条のアフターサービスには、付属の「ソフトウェアサポートカード」が必要です。本ソフトウェアのバックアップと併せて大切に保管してください。

仕様

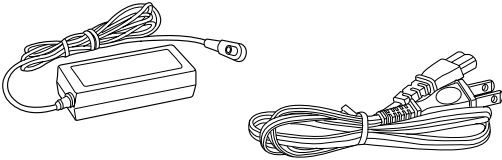
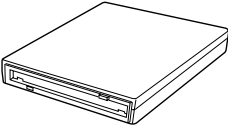
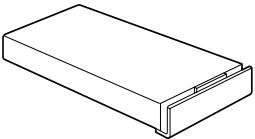
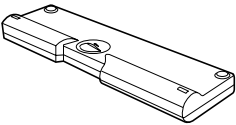
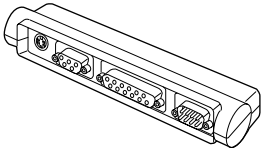
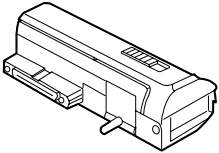
機種		CF-C33J8C/CF-C33J8K
CPU		MMX®テクノロジーPentium®プロセッサー233 MHz
メモリー	メインRAM*1	96 Mバイト(64 MバイトDIMM標準装備)
	キャッシュメモリー	32 Kバイト(セカンドキャッシュ:256 Kバイト)
	ROM	256 Kバイト
	ビデオメモリー	2 Mバイト
ハードディスクドライブ		3.2 Gバイト(1Gバイト=10^9バイト表記)
表示機能	テキスト表示	80文字×25行
	グラフィック表示	タイプ:8.4 " (TFT) 解像度:800×600ドット 色数:1677万色*2
	漢字表示	日本語表示40文字×25行
入力装置	キーボード	総数86キー
	ポインティングデバイス	スマートポインター(フラットパッド)
インターフェース	音声 マイク入力	ミニジャックM3(コンデンサーマイク使用のこと)
	音声 オーディオ出力	ミニジャックM3
	赤外線通信ポート	IrDA1.1準拠(最大転送速度 4 Mbps)/ASK
	USBコネクター	Universal Serial Bus
	内蔵モデム	ITU-T V.90 & K56flex準拠
	コミュニケーションコネクター	専用68ピン
	拡張バスコネクター	専用68ピン
カードスロット	PCカード専用	タイプⅠ×1スロットまたはタイプⅡ×1スロット
		Card Bus/ZV ポートサポート*3(3.3 Vで500 mA/5 Vで400 mA*4)
	RAMモジュール専用	1スロット(64 MバイトDIMM装着済み)
オーディオ機能		PCM音源(Sound Blaster Pro互換) FM音源 モノラルスピーカー搭載
時計機能		クロックバッテリーバックアップ 月差±60秒

*1 シンクロナスDRAMおよびセルフリフレッシュのモジュールに限り増設可能。
*2 ディザリング機能を使用して実現しています。
*3 カメラユニット装着時には、ZVポートを使用するPCカードは使用できません。
*4 12 V電源を必要とするPCカードは使用できません。

仕様

電源	入力	DC 15.1 V (ACアダプター:入力AC100 V*4, 50/60 Hz)
	バッテリーパック	10.8 V (Li-Ion)
	消費電力*5	約27 W
バッテリー稼働時間		標準約2.5時間(省電力モード時)
外形寸法(幅×奥行×高さ)		225×182×25.4 mm
質量		1.0 kg (標準バッテリー装着時)
使用環境条件		温度:5〜35 ℃ 湿度:30〜80 %RH(結露なきこと)
導入済みソフトウェア		Microsoft® Windows® 98,NIFTY Manager,Intellisync® for Notebooks,Acrobat® Reader,各種ドライバー
フロッピーディスクドライブ		外付け1ドライブ3.5インチ(1.44 M/1.2 M/720 Kバイト)

*4 ACアダプター本体はAC240 Vまで対応。電源コードは、AC125 Vまで対応。

*5 電源オン時、バッテリー充電中の表記です。(電源オフ、バッテリー充電終了時、ACアダプターは約0.6 Wの電力を消費しています。また、電源オフ時のバッテリーの消費電力は約80 mWです。)

Cモデル

カメラユニットの仕様については『カメラユニット取扱説明書』をご覧ください。

Kモデル

携帯電話インターフェースユニットの仕様については『携帯電話インターフェースユニット取扱説明書』をご覧ください。

別売り商品

ACアダプター（電源コード付）	外部FDD
品番：CF-AA1527J	品番：CF-VFDU02J

標準バッテリーパック	拡張バッテリーパック
品番：CF-VZSU07J	品番：CF-VZSC33J

I/Oボックス	携帯電話インターフェースユニット
品番：CF-VEBU01J	品番：CF-VEFC33J

別売り商品の名称と品番は最新のカタログでご確認ください。仕様改善のため、予告なく変更することがあります。

さくいん

A～Z

あ

か

さ

た

な

は

さくいん

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は､家庭環境で使用することを目的としていますが､この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

・本装置は、落雷等による電源の瞬時電圧低下に対して不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置等を使用されることをお薦めします。
・漏洩電流について､この装置は、社団法人　日本電子工業振興協会のパソコン業界基準(PC-11-1988)に適合しております。

保証とアフターサービス

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください。

転居や贈答品などでお困りの場合は…

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- その他のお問い合わせは、「テクニカルサポートセンター」へ！
  （詳細は、145～147ページをご覧ください。）

■保証書（別添付）
お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体１年間

■修理を依頼されるとき
『困ったときに開くページ』に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は
保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので、恐れ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間が過ぎているときは
修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。ただし、パーソナルコンピューターの補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後６年です。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理料金の仕組み
修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
技術料 は、診断・故障個所の修理及び部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

• FPANAPC*1アクセスについてのご相談は、「Let's note Station」へ！
*1 パソコン通信NIFTY SERVEのユーザーフォーラムでユーザーどうしによる情報交換などが行われています。
• Let's noteのホームページ*2では製品紹介、FAQなど情報掲載やご購入ユーザー様のご愛用者登録を行っております。
*2 [お気に入り]→[Panasonic お勧めのサイト]→[Let's noteホームページ]

パナソニックパソコン
テクニカルサポートセンター

フリーダイヤル 0120-873029（パナソニック）

受付日および時間
月曜日～金曜日（祝・祭日を除く）10時～17時

ご来店技術相談窓口
Let's note Station

東京都千代田区外神田6丁目13番10号
（ミクニ・イーストビル2F）

TEL 03-3834-8896
E-mail asklets@cbdo.mei.co.jp

受付日および時間
月曜日～金曜日（祝・祭日を除く）
10時～12時　12時45分～17時

ナショナル/パナソニック修理ご相談窓口

北海道地区

札幌 ☎(011)894-1251 札幌市厚別区厚別南2丁目17-7	**旭川** ☎(0166)31-6151 旭川市2条通21丁目左1号	**函館** ☎(0138)48-6631 函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内）

東北地区

青森 ☎(0177)39-9712 青森市大字八ッ役字矢作1-37	**岩手** ☎(019)639-5120 盛岡市羽場13地割30-3	**山形** ☎(0236)41-8100 山形市流通センター3丁目12-2
秋田 ☎(0188)26-1600 秋田市御所野湯本2丁目1-2	**宮城** ☎(022)375-2512 仙台市泉区市名坂字清水端59-2	**福島** ☎(0243)34-1301 福島県安達郡本宮町字南ノ内65

首都圏地区

栃木 ☎(028)632-8450 宇都宮市中央1丁目8-13	**埼玉** ☎(048)728-8960 桶川市赤堀2丁目4-2	**東京** ☎(03)5477-9780 東京都世田谷区宮坂2丁目26-17
群馬 ☎(027)352-1217 高崎市萩原町沖中205-18	**千葉** ☎(043)208-6011 千葉市中央区星久喜町172	**山梨** ☎(0552)22-5171 甲府市下飯田2丁目1-27
両毛 ☎(0276)25-6870 太田市東新町244-1	**船橋** ☎(047)334-5111 船橋市本中山6丁目11-7	**神奈川** ☎(045)847-9720 横浜市港南区日野5丁目3-16
水戸 ☎(029)225-0119 水戸市柳河町309-2	**柏** ☎(0471)63-8905 柏市北柏1丁目6-6	**新潟** ☎(025)286-7725 新潟市東明1丁目8-14
つくば ☎(0298)64-8090 つくば市花畑2丁目8-1		

中部地区

石川 ☎(076)294-2683 石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80	**長野** ☎(0263)58-0073 松本市大字笹賀7600-7	**岡崎** ☎(0564)55-5719 岡崎市岡町南久保28
富山 ☎(0764)32-8705 富山市寺島1298	**静岡** ☎(054)287-9000 静岡市西島765	**岐阜** ☎(058)323-6010 岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30
福井 ☎(0776)54-5606 福井市開発4丁目112	**名古屋** ☎(052)614-3136 名古屋市南区西又兵衛町3丁目48	**三重** ☎(059)255-1380 久居市森町字北谷1920-3

近　畿　地　区

滋賀 ☎(077)582-5021 守山市勝部町260 **京都** ☎(075)672-9636 京都市南区上鳥羽石橋町20-1	**大阪** ☎(06)359-6225 大阪市北区本庄西1丁目1-7 **奈良** ☎(0743)59-2770 大和郡山市椎木町404-2	**和歌山** ☎(0734)75-1311 和歌山市中島499-1 **兵庫** ☎(078)272-6645 神戸市中央区琴ノ緒町3丁目2-6

中　国　地　区

鳥取 ☎(0857)26-9695 鳥取市安長295-1 **米子** ☎(0859)34-2129 米子市米原4丁目2-33 **松江** ☎(0852)23-1128 松江市西津田2丁目10-19	**出雲** ☎(0853)21-3133 出雲市渡橋町416 **浜田** ☎(0855)22-6629 浜田市下府町327-93 **岡山** ☎(086)292-1162 岡山県都窪郡早島町矢尾807	**広島** ☎(082)295-5011 広島市西区南観音8丁目13-20 **山口** ☎(0839)86-4050 山口市鋳銭司字鋳銭司団地北447-23

四　国　地　区

香川 ☎(087)874-6200 香川県綾歌郡国分寺町新名663-1 **徳島** ☎(0886)98-1125 徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108	**高知** ☎(0888)66-3142 南国市岡豊町中島331-1	**愛媛** ☎(089)971-2144 松山市土居田町750-2

九　州　地　区

福岡 ☎(092)593-9036 春日市春日公園3丁目48 **佐賀** ☎(0952)26-9151 佐賀市本庄町大字本庄896-2 **長崎** ☎(095)830-1658 長崎市東町1949-1	**大分** ☎(097)556-3815 大分市萩原4丁目8-35 **宮崎** ☎(0985)85-6530 宮崎県宮崎郡清武町下加納336-2 **熊本** ☎(096)367-6067 熊本市健軍本町12-3	**鹿児島** ☎(099)250-5657 鹿児島市与次郎1丁目5-33 **大島** ☎(0997)53-5101 名瀬市矢之脇町10-5

沖　縄　地　区

沖縄 ☎(098)868-0131　那覇市西2-24-15

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0998

この取扱説明書は、再生紙を使用しています。

当社は国際エネルギースタープログラムの参加事業者として、本製品が国際エネルギースタープログラムの対象製品に関する基準を満たしていると判断します。

国際エネルギースタープログラムは、コンピューターをはじめとしたオフィス機器の省エネルギー化推進のための国際的なプログラムです。このプログラムは、エネルギー消費を効率的に抑えるための機能を備えた製品の開発、普及の促進を目的としたもので、事業者の自主判断により参加することができる任意制度となっています。対象となる製品はコンピューター、ディスプレイ、プリンター、ファクシミリおよび複写機などのオフィス機器で、それぞれの基準ならびにマーク（ロゴ）は参加各国の間で統一されています。

愛情点検　長年ご使用のコンピューターの点検を！

こんな症状はありませんか	・異常な音やにおいがする ・水や異物が入った	▶	このような症状の時は故障や事故防止のため、電源を切り、電源プラグとバッテリーパックを抜いて、必ず販売店に点検をご依頼ください。

便利メモ	お買い上げ日	年　月　日	品番*	
おぼえのため記入されると便利です。	販売店名	☎（　　）　－	お客様ご相談窓口 ☎（　　）　－	

*保証書に記載されている品番（例：CF-C33J8C）を記入してください。

松下電器産業株式会社　パーソナルコンピュータ事業部

〒570-0021 大阪府守口市八雲東町一丁目10番12号

FJ1098-1118

DFQM5247ZB